２０２２年度
まほし会年報

2022 年 4 月 1 日　～　2023 年 3 月 31 日

医療法人社団 まほし会

★ 真 星 病 院

目　　次

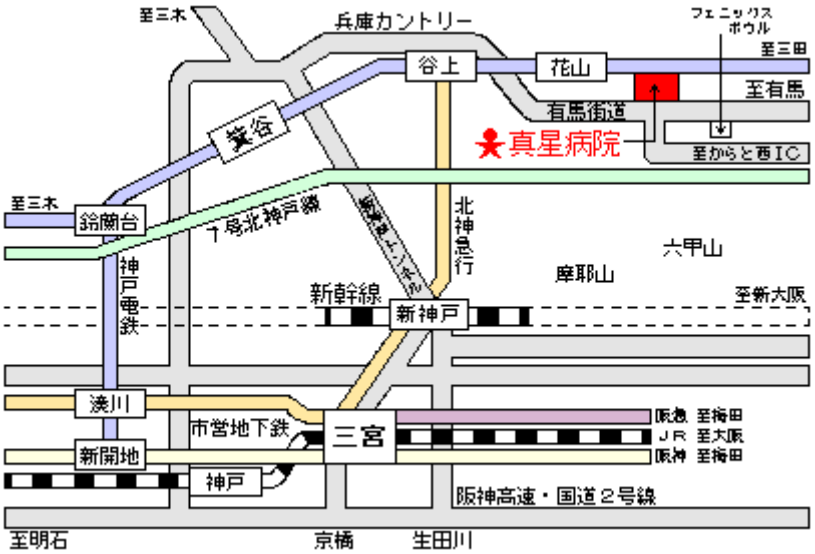
概要と沿革
概要と沿革 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
組織機能図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
2022 年度 病院全体評価・理事長方針 ・・・ 7
各部署の活動報告
医局
眼科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
循環器科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
整形外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
総合診療科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
小児科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
糖尿病内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
理事長補佐全体評価
（経営・情報管理担当） ・・・・・・・・・・・・ 24
看護部
2022 年看護部活動を振り返って ・・・・ 25
療養病棟科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
介護医療院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
腎・透析センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
一般病棟科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
糖尿病センター
地域包括ケア病棟科 ・・・・・・・・・・・・・ 31
外来科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
手術科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
クラーク科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
医療機器管理室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
病児保育室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
総合支援部
2022 年度を振り返って　・・・・・・・・・・ 35
薬剤科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
放射線科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
栄養科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
臨床検査科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
リハビリテーション科・・・・・・・・・・・・・ 39
訪問リハビリテーション科・・・・・・・・・ 40
総合サービス課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
総務課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
庶務用度係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
地域包括ケア部
在宅診療・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
地域連携室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
通所介護デイサービスセンター
まほしの里 ・・・ 48
訪問看護ステーションまほし・・・・・・・ 48
まほし居宅介護支援事業所
コスモス ・・・・ 49
まほし居宅介護支援事業所からと・・・ 50
関連事業
有馬あんしんすこやかセンター ・・・・ 51
委員会等の活動報告
教育活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
安全対策委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
感染対策委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
診療情報管理委員会・・・・・・・・・・・・・・・ 60
人間ドック委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
救急委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
接遇委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
輸血療法委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
臨床検査適正委員会 ・・・・・・・・・・・・・・ 63
一般救急・精神科等地域連携
モデル事業（リエゾン事業） ・・・・ 63
退院支援及び病棟管理
カンファレンス ・・・・・・・・ 64
診療統計
外来・入院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
疾患別退院患者数・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
疾患別平均在院日数・・・・・・・・・・・・・・・ 68
手術件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70

概要と沿革

□ 概要

【所在地】　〒651-1242　神戸市北区山田町上谷上字古々谷 12-3
TEL：(078)-582-0111　　FAX：(078)-583-8908
URL：　https://www.mahoshi.com
E-mail：　info@mahoshi.com

【交通機関】　神戸電鉄花山駅より東へ徒歩３分
市営地下鉄三宮駅から谷上方面へ、北神急行谷上駅にて神戸電鉄に乗り換え
三田または有馬温泉方面にお乗り下さい。
神姫バス花山停留所下車１分



【病 床 数】　174 床（一般 66 床(※1)　療養 90 床　介護医療院 18 床）
(※1) DPC 対象 40 床、 地域包括ケア病棟 26 床

【特　　徴】　ケアミックスの医療機関で、特に糖尿病に関しては総合的な治療ができる
地域密着型の病院として活動

【診療科目】　外科　内科　糖尿病内科　眼科　小児科　整形外科　循環器外科　循環器内科
泌尿器科　人工透析内科　消化器内科　胃腸内科　消化器外科　呼吸器内科
肛門外科　リウマチ科　放射線科　リハビリテーション科　麻酔科　老年内科

【特殊診療機能】糖尿病センター（病棟、糖尿病専門外来）　腎・透析センター（透析室、病棟）

【学会認定】　日本糖尿病学会認定教育施設
日本外科学会専門医療制度関連施設
循環器専門医研修関連施設
臨床研修協力施設

【機能評価】　財団法人日本医療機能評価機構認定「一般病院１（3rdG:Ver2.0)」

□ 沿革

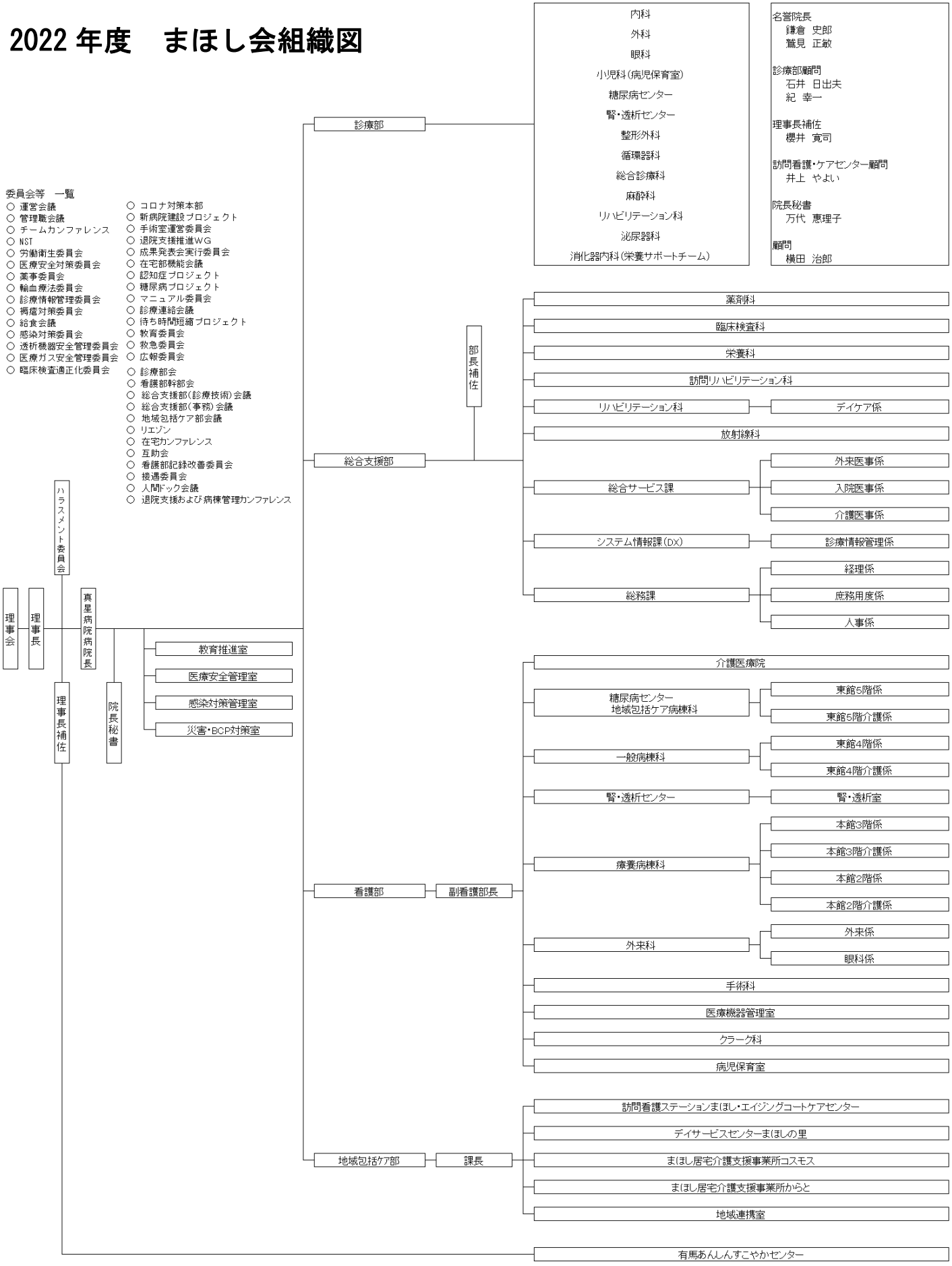
昭和	55(1980)	1月 12日	真星外科胃腸科　19床で開業。
		4月 1日	真星病院となる。診療科目は、循環器科・胃腸科・外科・放射線科であった。
		9月 1日	一般28床に増床。
昭和	57(1982)	8月 13日	一般59床に増床。
昭和	58(1983)	8月 23日	65床に増床。　基準寝具・基準給食を実施。 内科・眼科・小児科・整形外科・理学療法科を新設する。
昭和	59(1984)	6月 21日	95床に増床。
昭和	60(1985)	3月 11日	103床に増床。　人工透析を開始する。
昭和	61(1986)	4月 1日	130床に増床。
昭和	62(1987)	4月 1日	耳鼻咽喉科・泌尿器科を新設。
昭和	63(1988)	9月 30日	東館を増築し、185床になる。
		3月 1日	高気圧酸素治療装置を設置する。
平成 2年	(1990)	4月 1日	在宅訪問を開始する。
平成 4年	(1992)	4月 27日	初代院長　大石健三　逝去。享年46歳であった。
		4月 28日	亡夫の遺志を継ぎ、大石麻利子　第２代院長に就任する。
平成 5年	(1993)	3月 1日	一般185床から一般84床と特例許可老人101床に変更する。
		6月 1日	理学療法（Ⅲ）が承認される。
平成 6年	(1994)	8月 1日	基本看護・基本看護料（Ⅰ）、特例許可老人病棟入院医療管理料（Ⅱ）が承認される。
		10月 1日	新看護体系（3.5対1、Ｂ加算、13対1助手）になる。
平成 7年	(1995)	7月 1日	特例許可老人病棟入院医療管理料（Ⅰ）が承認される。
平成 8年	(1996)	1月 1日	新看護体系（3対1、Ｂ加算、13対1助手）になる。
		12月 1日	本館改修し特例許可老人101床から療養90床に変更する。 （全体：一般84床　療養90床） 療養型病棟2群入院医療管理料（Ⅰ）が承認される。
平成 9年	(1997)	7月 1日	新看護体系（2.5対1、Ａ加算、10対1助手）になる。
		12月 1日	東館一般84床を一般50床 特例許可老人34床 に変更する。 （全体：一般50床　特例34床　療養90床）
平成	10(1998)	4月 1日	ホームヘルパー養成事業を開始する。
		5月 1日	デイケアセンターを開設する。
		6月 1日	ボランティア「まひるのほしの会」を結成する。
		6月 13日	真誠会ホスピタウン・熊本ホスピタウン と姉妹提携を結ぶ。
		7月 1日	情報誌「まひるのほし」創刊号を発行する。
		10月 1日	健康管理センターを開設する。
平成	11(1999)	5月 1日	全日本病院協会より、日帰り人間ドック実施病院に認定される。
		6月 11日	ホームページを開設する。
		7月 26日	日本医療機能評価機構より病院複合Ａ（一般、長期療養）が認定される。
		9月 20日	神戸市で初めての病児保育「エンジェルさんのおうち」を始める。
平成	12(2000)	4月 1日	創立２０周年を迎える。 本館療養90床を介護療養42床 療養48床に変更する。 通所リハビリ、短期入所療養介護、訪問リハビリを開始する。 指定居宅介護支援事業所「コスモス」を開設する。 ヘルパーステーション「コスモス」を開設する。
平成	13(2001)	7月 1日	理学療法（Ⅱ）が承認される。
		9月 1日	糖尿病センターを開設する。
		11月 24日	公立出石病院・社会福祉法人グリーンアルム福祉会 と姉妹提携を結ぶ。

平成	14(2002)	4月	1日	「地域モニター会」を発足する。
		4月	16日	日本医療機能評価機構より病院複合Ａ（一般、長期療養）が再認定される。
		12月	1日	社団法人日本糖尿病学会教育施設に認定される。
平成	15(2003)	1月	1日	社団法人日本外科学会　外科専門医制度関連施設に認定される。
		2月	1日	病児保育「エンジェルさんのおうち」が神戸市に認定され、病後児保育として開始する。
		4月	1日	東館増改築し、一般50床特例許可老人34床から一般66床・療養18床に変更する。
				（全体：一般66床　療養108床）
				東館増改築に伴い、手術室・通所リハビリ・特浴室・透析室を移設する。
				腎・透析センターを開設する。
				能力主義人事制度を導入する。
		11月	1日	病児保育「エンジェルさんのおうち」を改装する。
		12月	1日	更生医療機関指定（腎臓）となる。
平成	16(2004)	6月	1日	診療情報管理科を開設する。
		8月	1日	言語聴覚療法（Ⅱ）が承認される。
		9月	27日	日本医療機能評価機構より病院複合Ａ（一般、長期療養）が再認定される。
		11月	1日	社団法人日本循環器学会　循環器専門医研修関連施設に認定される。
		11月	21日	第２回　まほし健康フェアー開催。
				第9回　ホスピタウン交流会を行う。(21～22日)
		12月	1日	更生医療機関指定（心臓脈管外科）となる。
平成	17(2005)	5月	21日	デイサービスセンター「まほしの里」を有馬口に開設する。
		4月	1日	創立２５周年を迎える。
				神戸大学医学部付属病院卒後医師臨床研修施設となる。
		8月	27日	神戸市長より救急業務の功績を表彰される。
平成	18(2006)	2月	1日	介護療養病床（２階本館）を医療療養病床に変更する。
		6月	1日	耳鼻科診療を終了する。
				ヘルパーステーション「コスモス」を閉鎖する。
		10月	1日	オーダリングシステムを導入する。
		11月	1日	小児科コミュニティー「まほしKids」を始める。
		12月	12日	医療法人社団まほし会 を設立する。
平成	19(2007)	4月	1日	医療法人社団まほし会 真星病院　となる。
		6月	1日	敷地内全面禁煙となる。
		6月	16日	DPC導入の影響評価に係る調査に参加する。
		8月	1日	一般10対1入院基本料となる。
		10月	1日	電算レセプトを開始する。
		10月	9日	情報誌「まひるのほし」がNPO法人日本HIS研究センターBHI賞に入選する。
		11月	7日	有馬救急隊、山田救急隊を迎え、救急隊地域病院研修を行う。
		11月	24日	第12回　ホスピタウン交流会を行う。(24～25日)
平成	20(2008)	4月	1日	16列マルチスライスCTを導入する。
		5月	1日	居宅介護支援事業所「コスモス」が法人参加となる。
		7月	1日	デイサービスセンター「まほしの里」が法人参加となる。
		12月	16日	真星病院ぽっかぽか保育園を新設する。
平成	21(2009)	2月	1日	オンラインレセプトを開始する。
		6月	1日	訪問看護ステーションまほしを開設する。
		7月	1日	DPC対象病院となる。
		9月	4日	日本医療機能評価機構より「一般・療養100床以上200床未満」が再認定される。
		12月	16日	訪問看護ステーションまほし　有馬エイジングコートに移設。
平成	22 (2010	4月	1日	医療法人社団まほし会　真星病院　30周年を迎える。
		7月	8日	栄養科　改築工事完成。作業療法室　開設。
平成	23(2011)	1月	1日	電子カルテを導入する。
		2月	28日	1階トイレ改修工事完成。1階待合ロビーの椅子新設。
				30周年の植樹。
平成	24(2012)	6月	1日	厚生労働省より在宅医療連携拠点事業として採択される。
		10月	15日	グループウェアを導入する。
		11月	3日	在宅医療連携拠点事業の一環として「まほしふれあい文化祭2012」を開催。

平成	25(2013)	3月	28日	第1回　地域包括ケア研究会を開催する。
		12月	28日	「喫茶コスモス」が閉店。
平成	26(2014)	2月	20日	「café コスモス」が新規オープン。
		4月	1日	病床種別変更。
				［変更前］一般病床66床（DPC対象56床、 亜急性期 10床）
				［変更後］一般病床66床（DPC対象40床、 地域包括ケア病棟 26床）
		4月	1日	真星病院が「北区医師会　地域包括ケア推進協議会事務局」に認定される。
		7月	26日	日本医療機能評価機構より「一般病院1(100床以上)(主たる機能)」が認定される。
		10月	17日	神戸市より「平成26年度こうべ男女いきいき事業所」に選ばれる。
平成	27(2015)	9月	16日	「真星ぽっかぽか相談室」を花山東団地のミニコープ前に開設する。
		11月	1日	整形外科・眼科にて再診予約制を導入。
平成	28(2016)	4月	1日	「まほしリハビリテーションセンター」をまほしの里(有馬口)に開設する。
平成	29(2017)	4月		まほし居宅介護支援事業所からと　開設
		10月	21日	ふれあいフェスティバル2017・第21回ホスピタウン交流会開催
		12月	6日	小児科専用ＬＩＮＥアプリ「まほしキッズ」開設
平成	30(2018)	3月	17日	第二回神戸市北区地域包括ケア推進総括協議会　総会に事務局として携わる。
		3月	23日	アイバンク支援の自動販売機を院内に設置
平成	30(2018)	4月		医療・介護同時改訂
		5月		麻酔科標榜
		12月		一般救急・精神科等地域医療機関連携モデル事業（リエゾン事業）開始
平成	31(2019)	3月		療養3東病棟閉院（介護医療院開設の為）
		3月		有馬あんしんすこやかセンター、居宅介護支援事業所からと　新事業所移転
		4月		介護医療院開設
令和	1(2019)	7月		病院機能評価（3rdG:Ver.2.0 一般病院１）が認定される。
		11月		自動精算機　導入
		12月		勤怠管理システム「勤次郎」導入
令和	2(2020)	4月		緊急事態宣言発令に伴い、玄関前トリアージ開始
		9月		外来診療　全科予約制開始
		9月	14日	入院患者のオンライン面会サービス開始
		12月		西側駐車場に有熱外来専用のユニットハウス３棟設置
令和	3(2021)	3月	1日	外来診療順番表示システム導入
令和	3(2021)	7月	15日	コロナワクチン一般接種開始
		12月		ＣＴを更新する
			21日	まほし会就職説明会
				新病院建設プロジェクト始動
令和	4(2022)	1月	23日	まほし会就職説明会
令和	4(2022)	4月		マイナンバーカードによるオンライン資格確認導入
		8月	8日	リフィル処方箋への対応開始
		12月		オンライン診療スタート
令和	5(2023)	2月	16日	病児保育ネット予約サービス『あずかるこちゃん』導入

組織機能図

2022 年度　まほし会組織図



２０２２年　病院全体評価

『２０２２年まほし会総括』

まほし会理事長　真星病院院長　大石 麻利子

大石 麻利子（理事長・院長）

２０２２年度は次への飛躍の為の足固めの年にすべく、まほし会のスタッフすべてが苦悩した日々でした。
前前年からのコロナ禍の中、３度にわたる病棟のクラスター化に対処すると同時に有熱外来の継続と日々の業務に絶え間ない緊張の日々の連続でした。

① かかりつけ医療機関になりましょう！

		2020 年度	2021 年度	2022 年度
救急受入件数		388	385	351
手術件数		941	832	1,088
透析件数		14,033	14,942	14,216
在宅	訪問診療件数	2,208	2,116	2,092
	訪問診療スタッフ数	2	3	2
	訪看件数	6,341	8,342	7,582
	訪看スタッフ数	4	6	7
	訪リハ件数	4,348	5,364	6,467
	訪リハスタッフ数	3	5	6
	訪問栄養指導件数	8	8	1
	訪問栄養スタッフ数	3	3	3
小児外来数		6,669	10,650	14,708
看取り件数		133	112	102
人間ドック件数		91	79	81

手術件数は整形と眼科で増加し、在宅事業は訪問診療と看護件数は減少しましたがリハビリは年々増加できました。介護事業も堅実に実績を伸ばしています。小児外来数も年々増加し、特に有熱外来にて顕著でした。生産年齢と思われる方々の人間ドック数は横ばいながら維持できました。

② もっともっと良い組織をつくりましょう！働き続けたい組織にしましょう！（表２）

2020 年度	看護部	総合支援部	診療部	地域連携室	有馬あんしんすこやかセンター	訪看まほし	居宅介護支援事業所	まほしの里	エイジングケアセンター	計
新入職者数	17	7	0	0	0	0	1	2	0	27
退職者数	32	12	1	1	0	0	0	1	0	47

2021 年度	看護部	総合支援部	診療部	地域連携室	有馬あんしんすこやかセンター	訪看まほし	居宅介護支援事業所	まほしの里	エイジングケアセンター	計
新入職者数	19	15	1	2	0	1	1	7	0	46
退職者数	19	5	2	4	0	0	1	5	0	36

2022 年度	看護部	総合支援部	診療部	地域連携室	有馬あんしんすこやかセンター	訪看まほし	居宅介護支援事業所	まほしの里	エイジングケアセンター	計
新入職者数	31	11	0	1	1	1	1	1	0	47
退職者数	26	8	0	0	0	1	2	3	0	40

２０２０，２１年と連続して看護師数は退職者の方が新入職者を上回っていましたが、２２年になり、ようやく新入職者数の方が多くなりました。しかし、男性５人を含め、２２人の産休、育休者がおられ、病床制限をせざるを得ない状況となりました。今後も引き続き休職者数をふまえたスタッフ数を確保すべく、より、働き甲斐、生き甲斐の在る職場、人間関係の良い職場を目指し人事、賃金制度、就業規則の見直しを行っていきます。

② 新病院を建設します。

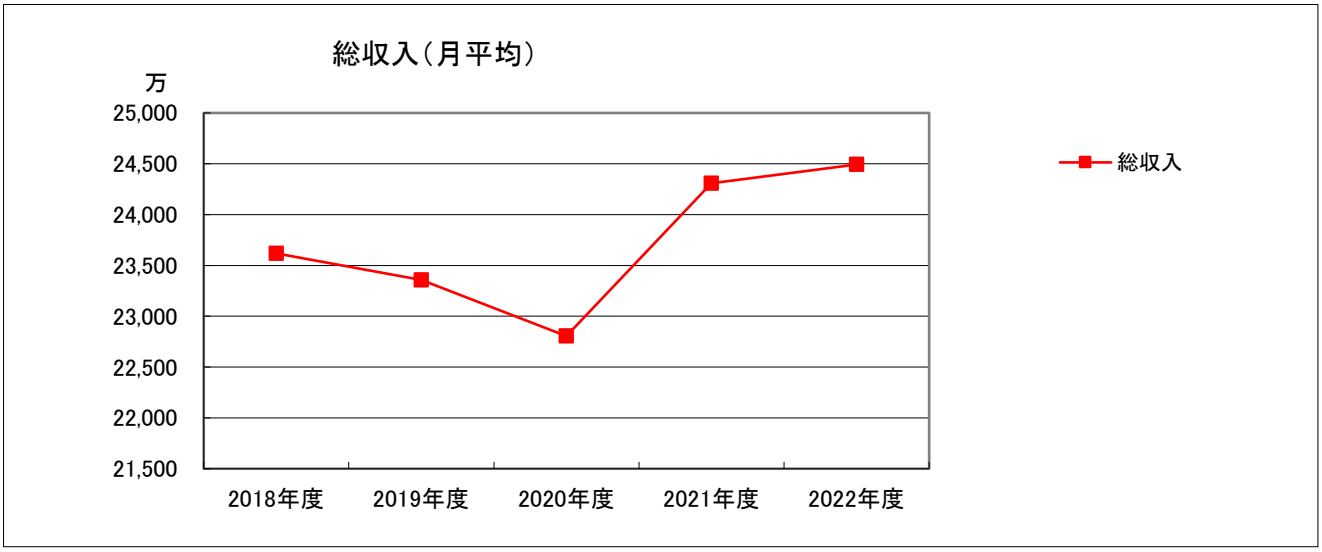
用地確保と設計途上に於いて建設費用の膨大な高騰が計上され、設計の見直しをせざるを得なくなりましたが、継続して、持続可能な新病院を建設すべく新たなプロジェクトメンバーを加え推進しています。

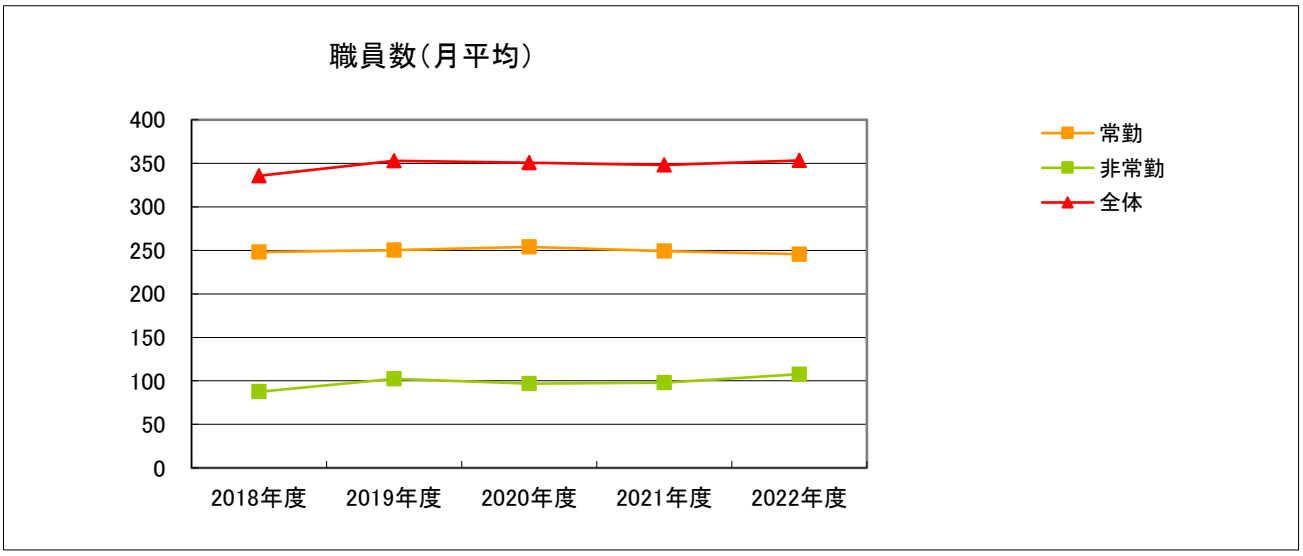
（表３）

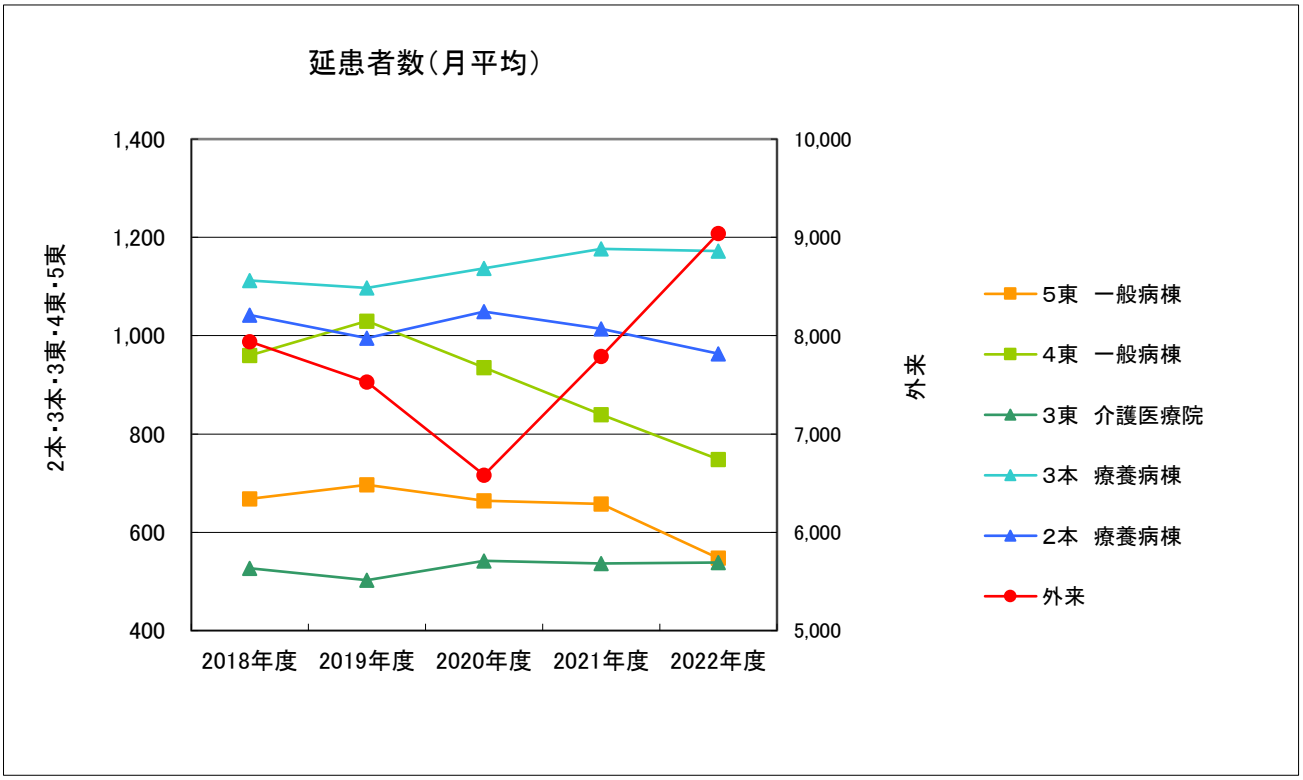
年度 （4 月～3 月）		月平均				
		2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
5東 一般病棟	延患者数	668	697	664	658	547
	1 日平均数	22	23	22	22	18
	収入	27,430,816	28,870,014	27,363,820	25,836,271	23,421,454
	単価	39,215	39,624	39,373	39,366	37,739
	平均在院日数	19	23	22	21	15
4東 一般病棟	延患者数	960	1,030	935	840	749
	1 日平均数	32	34	31	28	25
	収入	42,524,604	42,486,146	41,653,583	36,057,641	33,323,665
	単価	42,948	39,757	42,643	42,873	43,122
	平均在院日数	12	16	15	15	19
3東 介護医療院	延入所者数	527	503	542	536	539
	1 日平均数	17	16	18	18	18
	収入	13,830,367	8,497,640	8,707,917	8,035,871	8,724,816
	単価	26,266	16,926	16,061	16,435	16,196
3本 療養病棟	延患者数	1,112	1,097	1,137	1,177	1,172
	1 日平均数	37	36	37	39	39
	収入	24,494,565	28,364,057	29,538,447	28,422,588	29,991,075
	単価	22,002	25,836	25,977	26,110	25,585
2本 療養病棟	延患者数	1,042	995	1,049	1,014	963
	1 日平均数	34	33	34	33	32
	収入	21,404,681	20,052,880	20,524,188	19,289,139	20,272,709
	単価	20,542	20,153	19,563	20,838	21,022

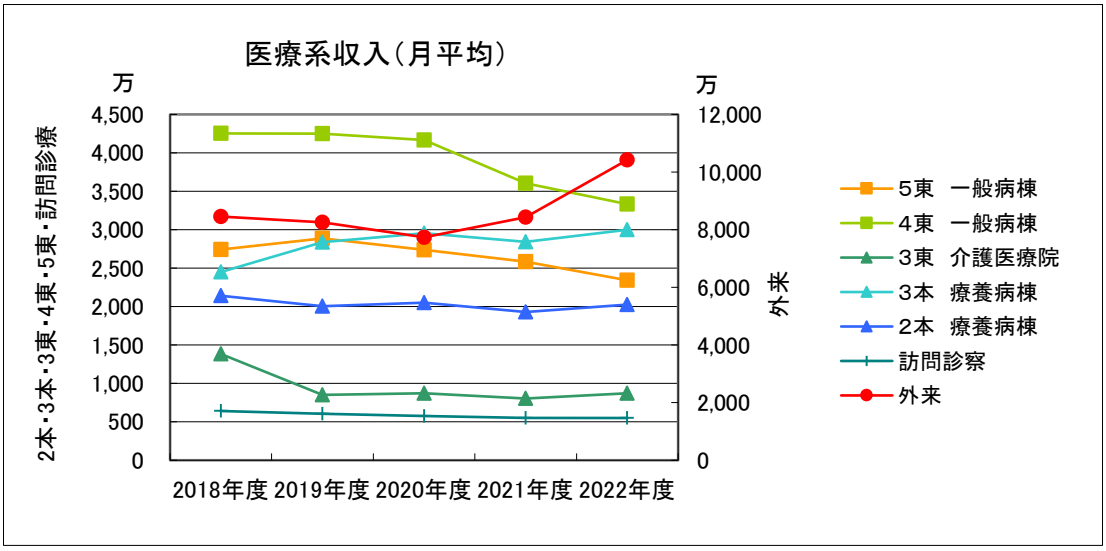
年度（4 月～3 月）		月平均				
		2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
外来	延患者数	7,938	7,528	6,583	7,789	9,041
	1 日平均数	242	231	196	226	248
	収入	84,596,167	82,584,372	77,365,727	84,312,232	104,219,523
	単価	10,677	11,011	11,848	11,976	11,561
訪問診察	医療収入	6,409,436	6,032,045	5,754,073	5,515,884	5,500,776
	介護収入	545,723	510,809	510,841	493,748	415,386
居宅介護支援事業所コスモス	収入	2,155,081	1,355,699	1,534,327	1,748,851	1,945,559
通所リハビリテーションポーラスター（デイケア）	収入	3,685,893	3,813,497	3,222,449	3,422,472	3,729,668
訪問看護ステーションまほし	収入	3,651,079	4,050,648	4,377,269	5,623,141	5,125,825
デイサービスセンターまほしの里	収入	3,617,872	3,411,450	3,879,390	3,694,961	3,620,085
居宅介護支援事業所からと	収入	972,085	1,576,221	1,954,764	2,425,651	2,299,634
有馬あんしんすこやかセンター	収入	3,029,855	3,100,713	3,132,927	2,933,024	3,059,612
総収入		**236,170,682**	**233,555,955**	**228,048,383**	**243,092,529**	**244,928,941**

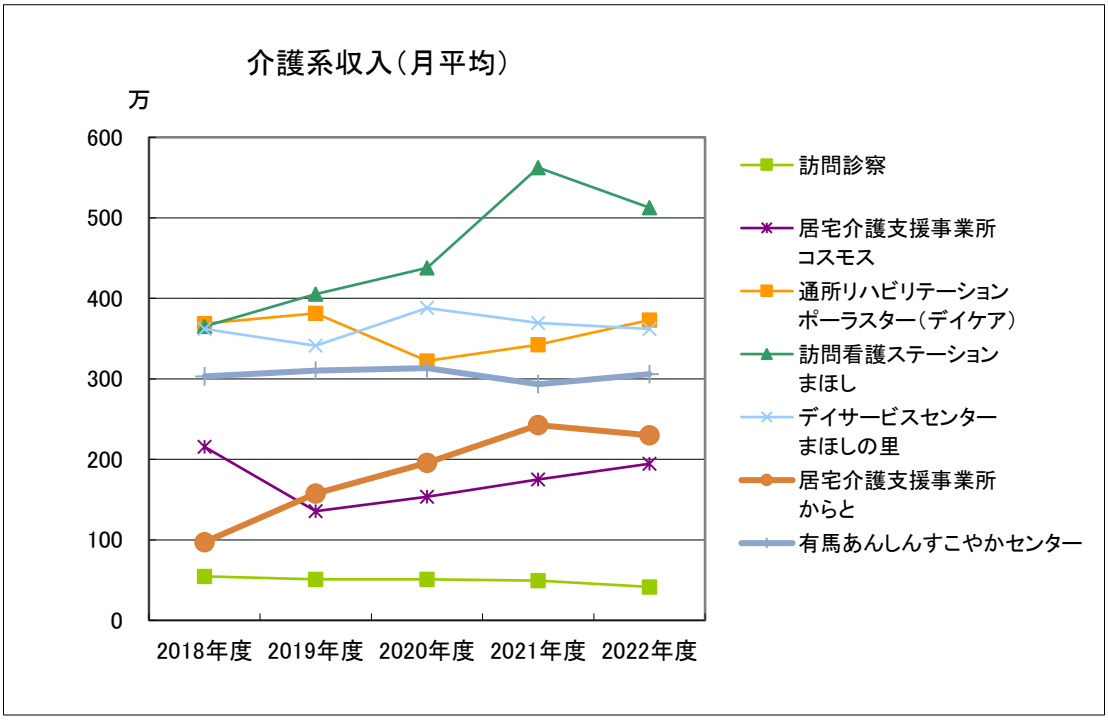
年度（4 月～3 月）		月平均				
		2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
新患患者数		234	256	194	454	372
救急受け入れ件数		48	46	32	32	29
手術件数		72	79	78	69	91
服薬指導件数		198	202	219	156	144
栄養指導件数	外来	31	24	23	30	29
	入院	10	17	48	48	36
透析	患者数	95	92	89	94	91
職員数	常勤	248	250	254	249	246
	非常勤	88	103	97	98	108
	全体	336	353	351	348	353

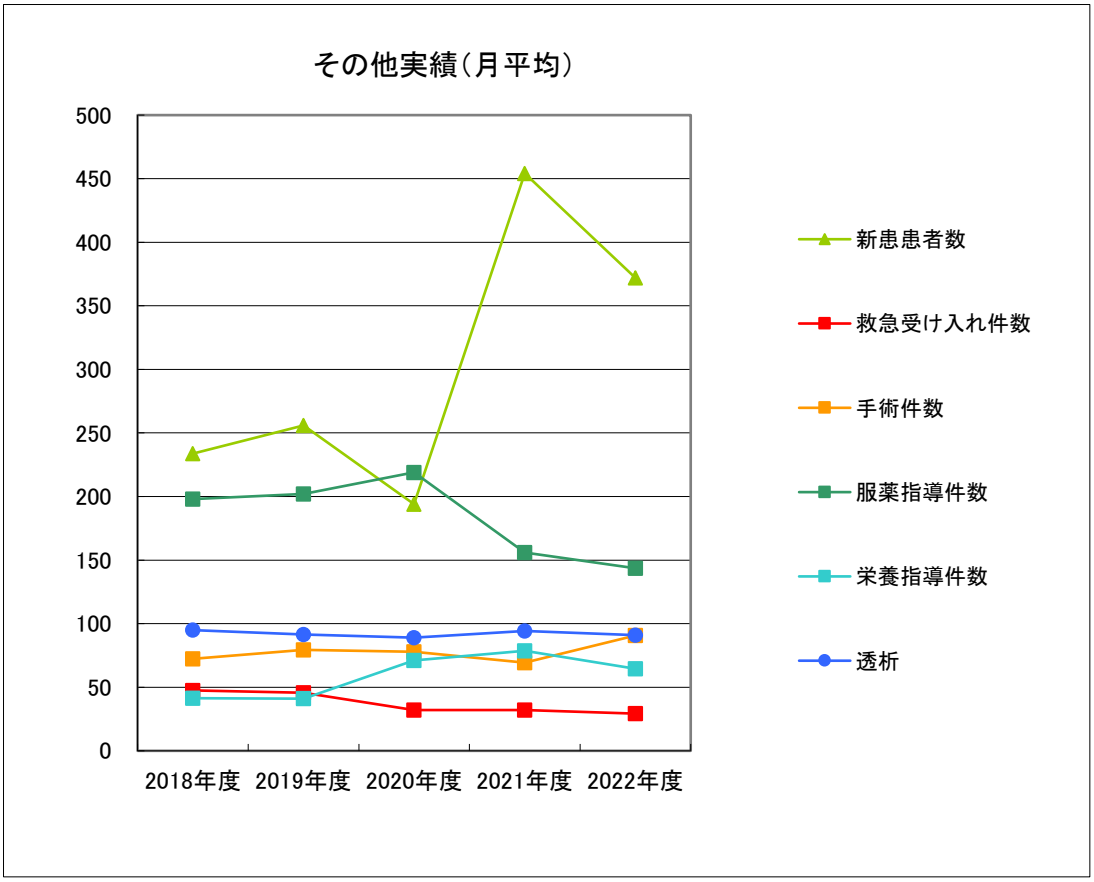

総収入（月平均）
万
25,000
24,500
24,000
23,500
23,000
22,500
22,000
21,500
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
総収入


職員数（月平均）
400
350
300
250
200
150
100
50
0
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
常勤
非常勤
全体


延患者数（月平均）
2本・3本・3東・4東・5東
1,400
1,200
1,000
800
600
400
10,000
9,000
8,000
7,000
6,000
5,000
外来
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
5東　一般病棟
4東　一般病棟
3東　介護医療院
3本　療養病棟
2本　療養病棟
外来


医療系収入（月平均）
万
万
2本・3本・3東・4東・5東・訪問診療
外来
4,500
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
12,000
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度
5東　一般病棟
4東　一般病棟
3東　介護医療院
3本　療養病棟
2本　療養病棟
訪問診察
外来


介護系収入（月平均）
万
600
500
400
300
200
100
0
2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度
訪問診察
居宅介護支援事業所
コスモス
通所リハビリテーション
ポーラスター（デイケア）
訪問看護ステーション
まほし
デイサービスセンター
まほしの里
居宅介護支援事業所
からと
有馬あんしんすこやかセンター



この１年の振り返りを通し、亡くなって逝かれた患者様と、去って行ったスタッフへの哀惜の想いと共に、これまでになく愚痴を言いながらも助け合い、何とか乗り越えようと必死で、もがき続けた同志への感謝が甦りました。この１年間の努力が、これからの、まほしへの糧となり、来る世代への足固めになったと確信致しました。

各部署の活動報告

診療部

□ 眼科

『２０２２年度　眼科報告』

非常勤医師（梶田、今井、栗本、上田，鉄本、山崎、西崎）の協力のもと、北区での基幹病院として高いレベルの医療を行い、待ち時間の短縮や予約外の受け入れも、できうる限り対応ができましたが、スタッフへ大きな負担をかけてしまいました。

５人の視能訓練士の内、２人が産休、育休に入り、眼科スタッフ数不足や、コロナ禍と看護師数不足による病床制限、入院制限にも拘わらず、患者数、手術件数、売上実績全て、過去最高の実績を上げる事が出来たのは、ひとえにスタッフのかたがたの、お陰でした。また、白内障の同日両眼手術の開始は特別個室を用意し、両眼共に高度の近視のかたが短期間で安全な視機能回復ができ、紹介元の医療機関にも高く評価していただけており、今後のまほしの眼科の成長に繋がると思われます。

次年度はスタッフの充実と共に、増加する硝子体内注射や外来手術の充実を図りたいと考えています。

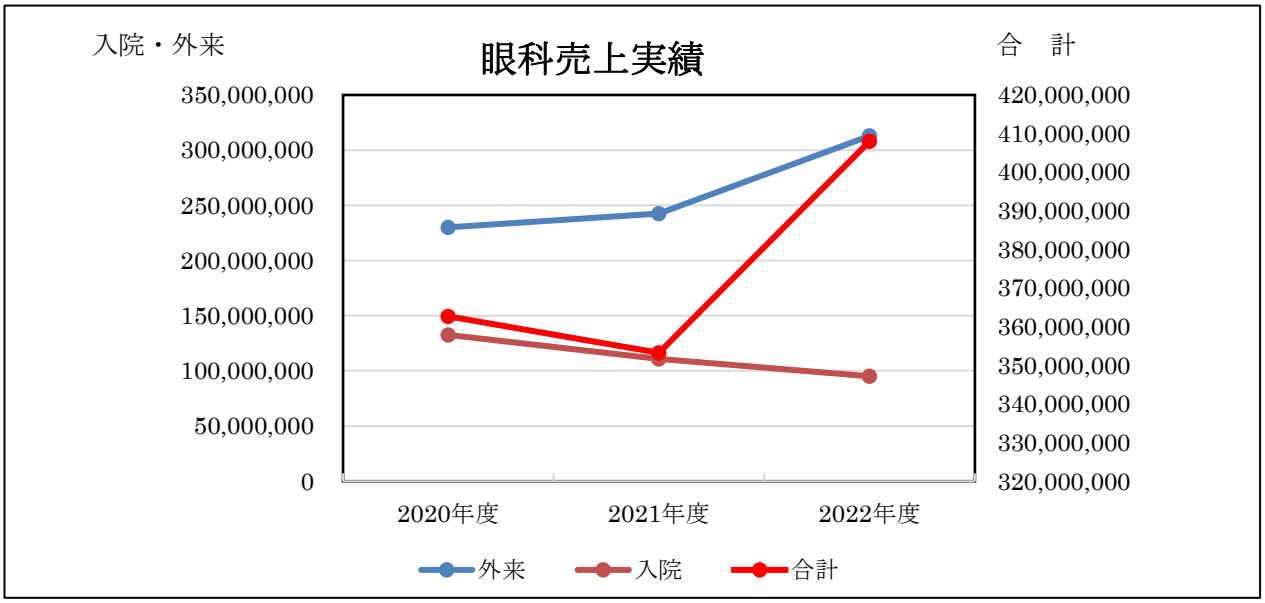
（文責；大石　麻利子）

（表 1）

眼科　手術実績　（4 月～3 月）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
総件数	1,366	1,293	1,548
水晶体再建術	734	683	890
眼瞼下垂症手術	4	9	8
翼状片手術	14	12	10
角膜移植術	0	0	0
緑内障手術(流出路再建)	5	5	7
緑内障手術(濾過)	0	0	0
緑内障手術(ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ挿入)	4	4	1
斜視手術	6	3	3
網膜復位術	0	0	0
網膜光凝固術	113	147	136
硝子体手術	7	4	9
硝子体茎顕微鏡下離断術	95	71	107
増殖性硝子体網膜症手術	17	10	10
その他（小手術含む）	367	345	367

眼科　患者実績　（4 月～3 月）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
外来	16,033	17,476	19,122
入院	1,341	1,133	809
合計	17,374	18,609	19,931

眼科　売上実績　（4 月～3 月）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
外来	230,063,986	242,398,794	312,896,045
入院	132,584,324	110,843,402	95,112,624
合計	362,648,310	353,242,196	408,008,669



□ 循環器科

『１年を振り返って』

欧米では 2022 年春からコロナ共存政策が始まり、ほとんどの人達がマスクを外して生活するようになったのに対し、日本では諸外国に比べ感染者数、死者数が少なかったせいもあり、本年も外出自粛、義務的なマスク着用、コロナ患者の入院勧告が継続されました。デルタ株からオミクロン株に移って感染力が増強する一方で、軽症例が中心になったにも関わらず、感染者のみならず、濃厚接触者への長期間の自宅待機要請が維持されたため、勤務可能な職員が減少して、一部の病棟を閉鎖する事態が生じました。また医師のコロナ感染のため、当直、救急、外来業務を残った医師で何とかやり繰りする状況も生じ、診療部長として頭の痛い日々もありました。しかしながら、これらを何とか乗り切ることができ、かつワクチン接種や有熱外来による収入で、病院経営をかろうじて維持できたのは幸いでした。また。厳しい面会制限を一律に継続している公的病院や介護施設が未だ多い中、感染の状況に応じて、適宜面会制限を緩和、または解除して患者家族に喜ばれたのは、思いやりある医療を目指している真星病院ならではの配慮であったと思います。

個人的には昨年に引き続き、認知症外来とスーパーコート神戸北、リブウェル西大池での訪問診療を担当しました。また本年からオンライン診療を開始しました。今は週 1 回の診療枠で CPAP 装着例などの再診例を診ていますが、今後、患者数を増やすと共に、初診例にもオンライン診療を拡げていきたいと思っています。

専門領域の診療に関しては、引き続き、循環器病の受診患者が増加しているのを感じます。特に、医師の転勤に伴う近隣の大病院や大学からの経過観察依頼が増えている印象がありますが、かかりつけ医として、これらの症例の診療を快く引き受けたいと思っています。ただ、地域住民の高齢化に伴い、これまで元気で外来通院されてきた一部の方が、通院困難になっています。これらの方々には訪問看護や訪問診療を介して、経過を観察させて頂く予定です。

（文責：鎌倉　史郎）

『1 年間の動向』

循環器系の常勤医師は、現在 2 名体制（鎌倉、紀）で担当しています。鎌倉医師は心電図を基盤とした不整脈疾患の世界的権威であり、当院循環器科としても名実ともにますます充実してきています。また 5 年前から当院検査科も臨床検査技師が心エコー検査の本格的な研修を始め、その後も積極的に症例数を重ね、現在では臨床検査技師による心エコー検査が軌道に乗っています。

当院での循環器科手術は現在、ペースメーカー手術が中心です。現在 2 名体制（紀、愛新）で担当しています。ただ、コロナ禍の中、病床制限や人手不足など様々な要因により、症例数はこの 1 年激減しています。

院内研修教育の一環として 2005 年 5 月から開始された「循環器セミナー」は、現在は主に鎌倉医師が担当していますが長引くコロナ禍の中、従来のような対面形式の研修セミナーが開催できないのが現状です。

教育面ではさらに、神戸市医師会看護専門学校からの依頼を受け、2007 年度から紀が非常勤講師を務め、循環器疾患の講義（解剖学 ＋ 生理学 ＋ 循環器内科 ＋ 心臓血管外科）を担当しています。若い世代の人材育成に、真星病院としても微力ながらお役に立てればと思っております。

（文責：　紀　幸一）

【 院内講習会 】　（ 2022.04 ～ 2023.03 ）

「高齢者総合的機能評価」（加算要件）
（ @ on demand（電子カルテ内 / DVD）） （ 紀 ）

【 院外講演会 】 （ 2022.04 ～ 2023.03 ）
該当なし

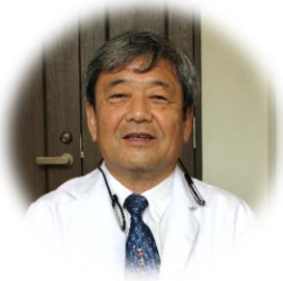
【 非観血的検査実績 】 （ 2022.04 ～ 2023.03 ）

マスター心電図（成人例）	11	
ホルター心電図	49	
トレッドミル・テスト	0	
心エコー（成人例）	155	
下肢静脈エコー	21	
PWV / ABI	108	（院内総数）

【 手術実績 】 （ 2022.04 ～ 2023.03 ）

ペースメーカー手術	
ペースメーカー植込み術（新規）	0
ペースメーカー電池交換	0
体外式一時ペーシング	0
その他の手術	0
計	0

□ 整形外科



『整形外科：2022 年度の結果と今後の展望』

真星病院 整形外科は、その外来患者数や手術件数などの増加に表れていますように、この 3 年半で活性化への道を辿っています。北区における高齢化や人口減など負の因子による影響が危惧されていますが、整形外科各分野において一線でご活躍されている先生方のご助力を賜りながら、北区だけではなく神戸市全体を視野に入れつつ、発展の方向を模索している次第です。

真星病院 整形外科を支えて頂いている先生方は、外傷など整形外科一般を常勤の南川 剛先生、肩関節鏡視下手術を中心とした肩関節疾患を「ひろクリニック」院長 坂井宏成先生、人工膝関節置換術を始めとした膝関節手術を海星病院リウマチ・人工関節センター長 石田一成先生、人工股関節置換術を高槻病院部長 藤代高明先生、スポーツ整形外科を西澤勇一郎先生、そして整形外科一般と「せぼね」外来による脊椎疾患を鷲見正敏と、総勢 6 名になっています。各医師が各々の分野を担当しながら有機的に連携し、若年からお年寄りまで幅広い層を対象とした診療が可能な体制を目指しています。

また、真星病院では新病院建設計画も具体化し、プロジェクトチームが新病院建設に向けて工程を一歩一歩前進させておられます。この地に、MRI や新しい手術室、外来機能などを備えた新しい診療施設が建設されることになりましたので、今後も、より発展性のある真星病院の将来について語ることができると期待申し上げています。

以下にこの１年間の整形外科の活動について項目毎に振り返り今後１年の展望について説明いたします。

１．整形外科外来

１）整形外科外来の現状

月曜日から土曜日までの午前は毎日「整形外科」外来を開設しています。火曜日の午前は隔週で坂井宏成先生が関節鏡や人工関節が対象となる関節疾患の外来を担当されています。水曜日は南川 剛先生が午後診の後、夜間当直もされるようになっています。金曜日の午後は西澤勇一郎先生がスポーツ疾患の外来を担当されています。また、土曜日の午前診では南川 剛先生の一般外来に加え、隔週で膝関節疾患の外来を石田一成先生にお願いしています。火曜日と木曜日の午後には鷲見正敏が「せぼね」外来を担当しています。

表 1. 真星病院 整形外科 外来診察担当表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	南川	南川 坂井（隔週）	鷲見	鷲見	鷲見	南川 石田（隔週）
午後	椎間板内酵素注入療法 ブロック枠	ブロック枠		ブロック枠	西澤	
	鷲見	鷲見（せぼね外来）	南川	鷲見（せぼね外来）		
夜間			南川			

２）「整形外科」外来患者数の推移

表 2 に「整形外科」外来患者数の推移を示します。実患者数、延べ患者数はともに経年的に増加を認め、2022 年度の外来実患者数は 5,610 名、延患者数は 10,479 名と 2019 年度のほぼ２倍に達しています。

表 2. 外来患者数

実患者数（人）			
2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
2,810	3,620	4,741	5,610
延患者数（人）			
2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
5,404	6,652	9,071	10,479

３）「せぼね」外来の意義とその現状

2020 年より「脊椎脊髄外科指導医」としての経験を活かして「せぼね」外来を始めました。

「せぼね」の病気は、健康であるにもかかわらず身体の自由が利きにくくなるという厄介なもので、きちんとした説明もなく手術を強く勧められたり、「寝たきり」になると脅されたり、病態を誤って理解させられていたり、症状が改善しなかったり、で今後の生活に不安を抱えておられる患者さんは多いようです。

こういった患者さんに対応する場合には、通常の整形外科外来よりも長い時間をとって問診や診察、病態の説明を十分に行う必要があります。このため真星病院では、火曜日と木曜日の午後に一般の整形外科外来とは別枠として「せぼね」外来を設けています。火曜日は午後 2 時から午後 5 時までの 3 時間で 9 名の患者さんを、木曜日は午後 2 時 40 分より午後 5 時までの 7 名の患者さんを診察しています。

明らかな手術適応があるわけではなく保存治療かどうか悩ましい症例、行き詰ったためにクリアカットな方針を立て難くなった症例、病態が果たして脊椎からきているのか不明な症例など、お困りの症例があれば遠慮なくお申し出ください。せぼね外来の HP を別途作成していますので御覧下さい。この HP を通じても診療申込みを可能にしています。添付の QR コードからお入り下さい。

５）「せぼね」外来患者数の推移

表 3 に「せぼね」外来患者数の推移を示します。2020 年度に 427 人であった総患者数は 2022 年度には 351 人増加して 778 人になっています。また、新患患者数も 126 人から 154 人へと増加しています。

表 3.「せぼね」外来患者数

「せぼね」外来患者数（人）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
総患者数	427	530	778
新患 患者数	126	150	154

６）外来でのブロック治療

「せぼね」外来や通常の「整形外科」外来を受診された患者さんのうち、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症による下肢症状の強い患者さんに対しては、仙骨ブロック（仙骨部硬膜外ブロック）や神経根ブロックを施行しています。ブロック後はしばらくの時間、ベッド上で安静にしていただく必要があるため、原則として火曜日と木曜日の午後 1 時から午後 2 時の間に行っています。各ブロック件数の推移を**表 4** に示します。

仙骨ブロックは 2020 年度で 29 件に施行されていましたが、2021 年度からは毎年 89 件に対して施行するようになっています。

神経根ブロックは 2021 年 12 月より始めました。劇的な効果を期待できますが、痛みを伴う治療法ですので、投薬や仙骨ブロックが無効で強い根性疼痛を訴えておられる症例を選択し、患者さんとよく相談した上で実施しています。2022 年度には 22 件程度に対して施行し、良好な成績を得る事ができています。

表 4. ブロック施行件数

ブロック施行件数（件）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
仙骨ブロック	29	89	89
神経根ブロック	0	7	22

７）「せぼね」リハとの連携について

「せぼね」外来や通常の「整形外科」外来を受診される患者さんの中には、強い脊柱変形のためにバランスが不良となり、立位・歩行などが困難になっている方が多くなっています。こういった「成人脊柱変形」患者さんに対しては、リハビリでの運動指導などを行うことで症状の改善がえられることが報告されています。真星病院リハビリ科では、これらの「成人脊柱変形」患者さんに「せぼね」リハを個別指導いただくことにしています。定期的なリハビリの個別指導に加えて、自宅でのリハビリ実施状況もチェックしながら、患者さんのモチベーションを維持するための手助けをして頂いています。

また、新しい試みとしてノルディック・ウォーキングの講習会も開催するようになりました。ノルディック・ウォーキングでは、二本の杖（ストック）を使用しながら歩行練習をすることで、よりバランスの良い脊柱の状態を獲得することを期待します。患者さんたちの間にも積極的に取り組む姿勢がみられ、効果が確認できるようになってきました。

２．整形外科手術件数

2021 年度と 2022 年度に真星病院で行われた手術術式と件数を表 5 に示します。コロナ禍のための病床制限ということもあって、手術件数はさほど多くはありませんが、2021 年度の 92 件より 2022 年度では 113 件へと増加しています(表 5)。

これらの着実な件数増加は、常勤の南川先生による骨折など外傷を含めた整形外科一般の手術、坂井先生による肩鏡視下関節手術、西澤先生による膝関節手術、あるいは石田先生や藤代先生による人工関節置換術などによる成果が実を結び始めた結果であると考えています。

なお、腰椎椎間板ヘルニア症例のうち、保存治療に抵抗性であるため、従来ならば手術が施行されてきた症例の中から、適応のある症例には、1 泊入院のうえ手術室で X 線透視装置を利用した椎間板内酵素注入療法を行っています。件数も 2021 年度の 10 件よりも 13 件へと増加していました。良好な成績をえることができていますので、通常の保存治療が無効でも手術を希望されない方など適応のある症例には、積極的に本術式を施行しています。

表 5. 2021 年度手術件数

手術分類	術　式	2021 年度 件 数	2022 年度 件数
関　節	全人工股関節置換術	3	5
	全人工膝関節置換術	3	6
	肩関節鏡視下関節唇形成術、腱板縫合術	25	19
	関節鏡視下肩関節授動術	0	２
	膝関節鏡視下半月板縫合術	2	9
	膝関節鏡視下滑膜切除術	1	0
	関節鏡下軟骨移植術	0	1
	関節形成術	1	0
骨　折	股関節人工骨頭置換術	6	4
	観血的骨接合術	23	23
	関節内骨折観血的手術	3	9
脊　椎	椎間板内酵素注入療法	10	13
その他	骨内異物除去術	7	10
	軟部腫瘍摘出術	3	5
	手根管開放術	2	2
	腱鞘切開術	1	3
	腱縫合術	0	1
	靭帯縫合術	0	1
	四肢切断術	1	0
	デブリードマン	1	0
	総 計	**92**	**113**

３．国内発表と院内講演会

2022 年度は老人会などでの一般の方を対象としたものも含め、以下のように真星病院での症例を発表しています。またこれらに加えて、院内での連携をより緊密に発展させるため、病院スタッフを対象にして整形外科疾患についての院内講演会を隔月に開催しています。

1) 久光製薬医薬情担者社内研修会（2022.11.14. 神戸 Web）
鷲見正敏（演者）: 腰部脊柱管狭窄症　保存治療か、手術治療か？
2) 寄神建設労働安全衛生大会記念講演（2023.1.27. 神戸）
鷲見正敏（演者）: 腰が痛い！？「ぎっくり腰」から「ヘルニア」まで
3) 下谷上寿友会健康講座　(2022.5.29. 神戸)
鷲見正敏（演者）:「怖い腰痛」と「怖くない腰痛」
4) 大池見山台健康講座　(2022.11.27. 神戸)
鷲見正敏（演者）:「怖い腰痛」と「怖くない腰痛」
5) 神戸北町健康講座　(2022.12.19. 神戸)
鷲見正敏（演者）:「怖い腰痛」と「怖くない腰痛」
6) 令和 4 年度兵庫県難病医療相談会（2022.10.30. 西宮）
鷲見正敏（演者）:「頸椎後縦靭帯骨化症(OPLL)」
7) 第２回神戸市北区整形外科カンファレンス（2022.8.6. 神戸 Web）
鷲見正敏（演者）: 強い膝関節痛をきたした中学硬式野球投手の 1 例
鷲見正敏（演者）: 新鮮圧迫骨折診断の盲点（ＭＲＩを使用しないでの判断）
8) 第 3 回神戸市北区整形外科カンファレンス（2023.1.21. 神戸）
鷲見正敏（演者）:「せぼね外来」を受診された「せぼね」以外の症例
坂井宏成（演者）: 鷲見正敏（座長）: 肩の痛みに対する薬物療法と手術療法　～神経障害性疼痛治療薬の使い方を含めて～
9) 第 139 回中部日本整形外科災害外科学会　(2022.10.29)
鷲見正敏（演者）: 主題「成人脊柱変形矢状面アラインメント」: 症状を有する成人脊柱変形（矢状面アラインメント）の推移　―前向きコホート調査研究―
10) 第 13 回国際頸椎学会 アジア太平洋部門（13th Annual Meeting of CSRS-AP）　(2023.3.11. 横浜)
鷲見正敏（座長）: アジア・シンポジウム（Asian Symposium）

４．今後の展望

常勤の南川 剛先生、坂井宏成先生、そして他施設から応援に来ていただいている石田一成先生、西澤勇一郎先生、藤代高明先生など、多くの整形外科医の先生方による支援のおかげで、真星病院の整形外科診療は安定的に発展して参りました。

新病院建設のプロジェクトも進行していますので、今後、さらに整形外科として種々の貢献を目指したいと思っています。そのためには整形外科全体の体制をより緊密なものにする必要があります。真星病院において整形外科に関わっていただいている医療事務・地域連携室・看護師・放射線科・リハビリ科・クラーク・看護助手・介護士などパラメディカルの方々が、そして、できれば整形外科に直接関わりがない真星病院のスタッフの方々も含めたみなさんが、ワン・チームとしてうまくスムースな連携関係を構築させることができればと考えています。真星病院のみなさんが整形外科のことを自分たちにとっての武器として意識頂くことができればと、今後を見据えて企んでいます。よろしくご支援下さい。

（文責：鷲見　正敏）

□ 総合診療科

『2022 年度　総合診療科・透析科』

【総合診療科】

総合診療科を受診される疾患は多岐にわたり、感染症、呼吸器疾患、内分泌疾患、循環器疾患、耳鼻科疾患、泌尿器科疾患、脳神経疾患、精神科疾患、皮膚科疾患、健診など例年の通りであった。感染症は有熱外来としてコロナ感染者を院内に入れないための診察室を院外に設置したため、初診で発熱患者を診ることは少なくなった。地域住民に高齢者が多く疾患も多岐にわたり、かかりつけ医　地域に密着した病院であるためにも病院窓口外来としての役割も担っていると考えている。健診などをもっと増やせれば良いと考えている。

＜透析科＞

年間患者の内訳は別表の通りで、患者数の動向は昨年とほとんど変化がなかった。入院患者の割合が少ないことが病院の特徴を出し切れていないように思われた。コロナ感染の透析患者に対する対応は昨年同様大変だった。透析室内に感染者ゾーンを作り、非感染患者と接触することなく時間をずらして透析を実施した。また、通院患者に感染が疑われた場合は、自宅から電話連絡をして頂き通院方法などを考慮する対応を徹底した。それによって、透析室でのクラスターの発生はなかったが、コロナ感染対策で一般病棟への入院制限が、少なからず透析患者の受け入れへも影響があった。

当院の透析環境は、リハビリ、療養病棟、糖尿病内科・眼科・整形外科があることなどから、　合併症などで通院が困難になった場合に、リハビリ目的や療養病棟への入院をご希望されてのご紹介が多くなっている。一方、訪問リハビリ、介護サービス等を利用して、近隣のクリニックの先生方にご協力頂きながら、可能な限り在宅復帰を目指している。当院の役割である療養病棟などの医療資源の活用をさらに進める必要があると思われた。長期透析による合併症で在宅復帰が困難な患者や原疾患から介助が必要な患者などを受け入れる方針に大きな変更はなく、療養病棟では重症患者や認知症患者など在宅での介護負担により、自宅でお世話ができなくなった患者を受け入れる事が多くなっている。透析時の不穏行動の管理や抜針事故予防などスタッフの負担が増えている現状はあるが、透析患者の高齢化によってますます必要とされる施設になっていきたいと思っている。

（文責：司尾 和紀）

【2022.4.1～2023.3.31　透析患者数の推移】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
患者数	94	92	93	97	92	91	91	92	88	88	86	89	1093
外来	65	66	66	72	68	69	69	70	67	66	67	70	815
入院	29	26	27	25	24	22	22	22	21	22	19	19	278
新規導入数	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
転入数	6	5	4	4	3	3	4	3	4	2	4	5	47
転出数	2	6	0	1	3	3	3	2	5	2	3	4	34
死亡数	1	1	1	2	3	2	2	1	2	0	2	0	17

□ 小児科

『令和４年度　小児科の動向』

新型コロナウィルス感染の影響を受けて日曜外来を閉鎖せざるを得ない状況は続くが、それ以外はコロナ前と同様に毎日外来診療を行っている

特殊外来としてはこれまで通り、週３回の予防接種外来を行い、その内火曜日の決まった時間帯ではあるが小児コロナワクチンの対応も行っている。

小児アレルギーを担当されていた田村先生の退職に伴い、小児アレルギー外来の縮小を余儀なくされたが、現在は佃が舌下免疫療法と食物アレルギーの一部を担当し継続することが出来ている。

石井先生のよろず相談外来はいつも予約がいっぱいで、乳幼児の発達から思春期の心のケアに至るまでこの地域の子供たちにはなくてはならない総合小児科医として、日々の診療に当たられている。

佃が担当する循環器外来もこれまで通り主に先天性心疾患、川崎病後のフォロー、学校検診への対応を行っておる。

近隣の病院小児科との連携は順調であり、専門領域の疾患についてはふさわしい後方病院へ紹介している。

（文責：佃　和弥）

□ 内科・糖尿病内科

『2022 年度・内科・糖尿病内科』

糖尿病内科においては 2022 年の目標に「明日を目指した糖尿病診療と糖尿病療養指導、そしてそのための足固め」を掲げ、上田と押切医師の 2 人体制で糖尿病内科の診療を継続した。約 3 年にわたるコロナ禍で数回の感染拡大があり、通院・入院患者にも感染が及んだが幸いにも重症化する症例は少なかった。日頃からの糖尿病患者の感染予防のための指導が必要であることを痛感している。

かかりつけ診療所・クリニックからの紹介や基幹病院からの逆紹介の患者は順調に増えている。特に、代謝失調状態（高血糖状態）で入院治療が必要な症例の円滑な受け入れに重点を置いた。

栄養教室や糖尿病教室は集団指導となるため開催は出来なかったが、管理栄養士による個別指導、看護師の療養指導外来・フットケア外来、薬剤師の服薬指導とインスリン自己注射手技指導など各スタッフが自分の職種の専門性を活かした療養指導に重点を置いた。

2022 年の糖尿病センターの診療活動としては①看護師による療養指導外来・フットケア外来（水曜日）、②毎週月曜日の本館中心の糖尿病回診、③月 1 回の糖尿病チームカンファレンス（毎月第 4 木曜）、等が挙げられる。療養指導外来・フットケア外来の知名度も向上しており、利用希望の患者も増えつつある。糖尿病回診とチームカンファレンスはスタッフのレベル向上と意思疎通を図るという目的があり、チーム医療の観点からも重要であったが、入院患者でコロナ陽性者が発生した際は回診を休止することとなり、チームカンファレンスもこの一年は終始スタッフの自習となった。

糖尿病センターの院外活動・研究活動として近隣の開業医諸氏との勉強会（第 20 回糖尿病地域医療勉強会）は 2022 年 7 月 21 日に開催した。また、学会活動では、関西全域が対象となる第 29 回関西行動医学研究会(2022 年 5 月 21 日)を主催、第 35 回日本臨床内科医学会（名古屋、2022 年 9 月 18 日～19 日）で現地発表、第 59 回日本糖尿病学会近畿地方会（2022 年 11 月 5 日）で一般演題座長を務めた。

糖尿病治療の目標の「糖尿病のない人と変わらない寿命と QOL」の実現のために良好な代謝状態維持に基づく糖尿病血管合併症の発症・進展阻止に加え、高齢化で増加するフレイル・サルコペニアなどの併存症の予防・管理が加わった。糖尿病が原因となってスティグマや社会的不利益、差別が生じていることも大きな問題となっている。「明日を目指した糖尿病診療と糖尿病療養指導」は 2022 年度だけの目標に終わらずに掲げ続け、いついかなる時にもかかりつけ医として患者に寄り添った診療を心掛けて行きたい。

理事長補佐　全体評価（経営・情報管理担当）

2022 年度もコロナの影響を受けた年でした。看護人不足、コロナのクラスターによる病床制限による入院受入れの制限や救急受入れの中止などその影響は計り知れないと思われる。しかし、外来患者および手術件数は増加しており、本来であれば病床稼働率、回転率に加え、医療看護必要度も改善するはずであるが伸びきれなかったというのが現状である。特に眼科はできるだけ日帰り手術を優先したため、その影響は多方面に及んでいる。介護関連事業も同様であるが各事業所の頑張りが表れた結果となっている。

コロナの影響は多大であるが、これを機に当院のあるべき姿を再考し、更なる成長のための道筋を明確にすべき時期に来ている。在宅から外来、急性期、回復期、慢性期、介護とシームレスにサービスを提供できる体制を如何に強化していくか。北区の人口が減少する中、どのように集患すべきかを考えるべきでありまずは大きな柱を現在ある眼下に加え、明確にして構築していく。介護事業の訪問系の拡大を如何に図るか。拠点の拡大や M&A も 1 つである。

そして事業の持続可能性を維持するための制度改革も必要となる。コロナが 5 類感染症に位置付けられた今、感染症への対応も含めた事業の再構築を考える好機が訪れたと考え前進していくべきである。

理事長補佐　櫻井寛司

『1 年を振り返って』

COVID-19 感染症による混乱も３年目を迎え、世間では、with コロナ時代と叫ばれ、非日常から少しずつですが、新しい形での日常を取りもどそうと「新しい生活スタイル」としての活動が増えてきました。看護部の 2022 年度は、人員は厳しい状況下でのスタートとなりました。

理事長方針【足固め】を受け、【新病院に向け基盤となる組織の充実を図る】とスローガンを掲げ、変化を恐れず安全第一で医療継続を目指し、次世代へ繋いで行く活動にしたいとスタート致しました。
しかし、トリアージやワクチン接種による電話対応に追われる総合サービス課・プレハブでの有熱診療による暑さ、寒さ、孤立した環境での診療継続による対応者への負担、コロナ感染症患者入院対応による病棟看護師・介護職員の不安、ワクチン接種への人員確保問題、新入職者はあるが、歓迎会や送別会もできず職員への行動制限も続き、コミュニケーションエラーが起きやすい環境となり、メンタルヘルスケアが必要なスタッフも増えました。そのような中でも私達は、目の前の患者に笑顔でケアを提供していく役割と責任があると奮い立たせ、経営計画に沿って、一つ一つ様々な制限を緩和しながら活動を進めてまいりました。

容赦ない COVID-19 感染症は、変異株（オミクロン株）による感染力はさらに強まり猛威を振るい、当院においても防ぎきれず、８月東館　１２月には３階本館・介護医療院の患者さんを含め４８名の患者が罹患し、80%近い病棟職員も罹患するといった状況となりました。
その状況下でエアコンは故障、廊下は全開、詰所が中央にあり病棟全体を閉鎖空間（レッドゾーン）階段踊り場・渡り廊下の防火扉先をイエローゾーンとして対応しました。病棟内では、経管栄養患者の準備・内服薬や注射薬の準備や受け渡し・ディスポ食器による食事介助・ポータブルトイレ移乗・咳嗽頻回の患者・吸引も頻回に必要な患者ケアの継続は、接触率も高く、廊下勤務となり、寒さと孤独と業務過多に陥り、とてもとても厳しい状況となりました。
地域包括ケア病棟を閉鎖し、一般病棟に人員を招集し、３階本館職員と協働し夜勤体制を一時３人に増やし、透析送迎には、介護職や手術科からの応援、透析は透析内で看護師と臨床工学技士が協働して、どうにか乗り切りました。スタッフが自ら「応援に行くしかない・私達が行きますよ」の一言が大きな救いとなりました。病棟内では、休憩の場所もなく、多目的ホールに、ストーブ・茶やスープを準備し、一般病棟個室を一時仮眠室として開放するなど工夫しました。結果的には、仮眠をとる余裕はありませんでした。私達の印象としては、とっても暗く長い期間だったと感じましたが、正確な期間としては、初発感染者検出１２月６日～１２月２６日（患者が最終隔離解除となった日）２０日間の出来事でした。（最終終息宣言保健所認定は、１月）
考え方次第では、この期間で病棟以外に拡大せずに抑え切り収束できた事は、皆の協働と対応力の高さだと自負できるのでしょう。それでも、私達の心には、長くて苦しい期間として、胸に刻まれることと同時に、多くの課題と多くの反省を残す結果となりました。

振り返るたびに、想定できたはずだと何故シミュレーションをしなったのか、「あの環境ではできない」と決めて、「拡大は起こさない」と思っていたようにも振り返りました。

災害対策において、大規模地震などの自然災害同様に、感染症に対しても備え（シミュレーション）が

必要であると言われており、その必要性を心から痛感しました。

１年を通して、様々な活動を支えて乗り越えた職員の心情を察し、心理的安全性を担保出来るよう環境改善とシステム改善に取り組まなければならない、そのためには１０月に、WLB 活動と題し、仕事と生活センター（兵庫県）のサービスを使い 90%以上の回収率であった、アンケート調査の分析結果も活用し、改善提案を行いたい。

今年は、COVID-19 感染症対応の 3 年目にして、大きな爪痕を残しましたが、新たな活動も始めることが出来ました。

介護職員として、外国人雇用を開始しました。職員の皆さんの温かさにより生活支援や業務サポートができ、日本語が難しくても様々な表現力で、介護スタッフと協働できるようになりました。

2023 年度は、2022 年度より益々厳しい状況となりますが、上記で述べた心理的安全性を担保できる環境改善提案、災害対策（BCP 策定）マニュアル整備とシミュレーションを行うこと。人材確保対策・人材活用には、BPO の導入を視野に、業務のタスクシフト・タスクシェアにより専門職としての役割を意識した変革を実施すること、等を目標とし、組織体制の再構築を図る事で地域の皆さまに信頼と安心・安全な看護・介護が提供できると信じて活動して参りたいと思います。

（文責：園田 慶子）

【看護部活動報告】

年間

看護部幹部会開催　１～2 回／月　年間　　開催

月間

4 月

- 新入職者オリエンテーションの実施
- 介護係へジョアン・ローズマリー2 名のフィリピンからの外国人雇用を開始し、2 人への生活支援を行うと共に、職員への呼びかけを実施
- 教育委員会より年間教育スケジュール発表　youtube 動画研修発信とし、研修内容を絞った
- 看護協会院外研修参加は、ZOOM 中心での参加を推奨し教育継続する
- 眼科手術　水曜・金曜　手術前トリアージ（看護部長）の内容を検討
- 二次性骨折の管理料加算申請に伴う検討実施し、専任看護師を外来・4 東・5 東から決定した
- 診療報酬改定に伴い、外来感染症対策向上加算２算定・・・コロナ患者受け入れの検討

5 月

- 看護の日　5/12　「感染症対策中の励ましメッセージへの感謝」と「私の看護」を展示
- 同時就職説明会開催

6 月

- 配茶システムの検討
- 看護協会　ヘルシーワークプレイス推進委員会へ活動参画し情報提供
- コロナ対策；接触者である子供の受け入れ保育方法の検討
- ベッドマットレスの更新　商品は、「テルサ」→「NASSO」へ変更・・ハードタイプ・ソフトタイプ全入れ替えに伴う搬入スケジュール作成・・全病棟体制調整　6/26（日）実施

7月

■　医師の依頼もあり、麻薬マニュアルの変更
　看護師側のドラックする場合は、薬剤師で処方箋持参の上、担当医師との確認後払い出しとなる

■　ふれあい看護体験　7/21　常磐高校生　2名を受け入れた

■　入職オリエンテーションブックの内容を教育推進室で見直し

■　倫理的事項の記録についてマニュアル作成を記録委員会で検討

8月

■　医療監視

■　施設車椅子の紛失事例に伴い、施設入院患者の車椅子や個人車椅子預かる場合の「預かりタグ」管理を決定

9月

■　経管栄養チューブの国際規格変更に伴い、コネクターの形状が変更された
　採用製品の変更に伴い、使用方法の周知

10月

■　WLB への取り組みとして、兵庫県の仕事と生活センターの力を借りて病院自己評価と現状分析のためのアンケートを実施。結果を基に改善提案を行う（10/17～10/28　無記名各自封筒へ）

■　エアーマットの点検実施計画を褥瘡委員会と業者で連携し実施。結果を基に次年度予算申請を検討

■　看護職処遇改善評価料が新設・・・介護医療院への説明会実施

■　介護補助体制充実加算（看護補助体制加算）の申請には、オンデマンド研修7項目研修受講が必須
　全看護師・介護スタッフ研修実施　指導者（師長は、外部研修5時間の参加必須により参加予定）

■　有熱外来の運営について、看護部長→外来師長（部門）へ　委譲。全部署で協力体制の統一を図る

■　10/16～　オミクロンワクチン接種の協力要請　10/15～インフルエンザワクチン同時開催

11月

■　BLS研修を毎年全職員対象に実施・・計画的に行うことを検討
　江角NSより指導者研修を実施（医療安全メンバー・BLS・ICLSの要資格者）

■　コロナワクチン実施　応援依頼

■　予約センター開設から評価されていない為、11/28～総合サービス・クラーク合同会議を開催していく

■　1月～新規　外国人3名の雇用を検討

■　地域活動支援　花山総合防災訓練を谷間NSへ依頼

■　退院支援ワーキング　（電子カルテ内の書式の検討）
　退院支援計画書・安定期・退院支援パス自宅用・施設用　2023.1.4～　使用開始予定で調整を図る

12月

■　コロナ感染症対策：３Fクラスターに伴い、５E閉鎖　４E・５Eを合併し３F看護師の応援体制を実施

■　透析送迎　透析・手術室・病棟　で連携強化を呼びかけ

1月

■　病床運営について検討

■　アルバイト勤務の検討・部署異動について検討

2月

■　病児保育室受け入れシステムの導入を検討し、導入開始

3 月

■　懸濁ボトルの採用　経費節約

■　病棟の患者面会制限緩和についての周知、伴う面会カードの廃止、総合サービス課での荷物預かり中止

面会時の注意事項を含めてご家族への個別連絡を実施

■　2023 年度　新入職オリエンテーションの実施計画　（4/3　月）

■　2023 年度　認定看護管理者過程の受講希望者・推薦

■　2023 年度　理事長方針　看護部方針　部署目標　発表

【看護部人員の動向】

（離職率）

職種	R2(2020)			R3(2021)			R4(2022)		
	期首人数	退職者数	離職率	期首人数	退職者数	離職率	期首人数	退職者数	離職率
看護師	96	6	**6.3**	88	9	**10.2**	87	11	**12.6**
准看護師	9	3	**33.3**	6	2	**33.3**	5	0	**0.0**
看護補助者(介護福祉士／CW)	47	7	**14.9**	23	4	**17.4**	21	2	**9.5**
				23	1		25	6	
臨床工学技士	9	4	**44.4**	6	0	**0.0**	8	0	**0.0**
クラーク	13	1	**7.7**	15	2	**13.3**	17	1	**5.9**
保育士	4	2	**50**	2	0	**0**	3	0	**0**
眼科(ORT)	5	0	**0**	5	0	**0**	6	3	**50**
眼科(OMA)	6	0	**0**	6	0	**0**	6	0	**0**
看護師・准看護師	105	9	**8.6**	94	11	**11.7**	92	11	**12.0**
計	189	23	**12.2**	174	18	**10.3**	178	23	**12.9**

【リエゾン事業】

2018 年に神戸市北区医師会における在宅医療充実強化推進事業の一環として、兵庫県立ひょうごこころの医療センターとのリエゾン事業が開始となり、今年で４年目を迎えました。当院の入院患者の平均年齢は８０歳を超えています。又１００歳を超えての整形外科手術もありました。入院中の精神疾患の増悪や認知症の周辺症状、せん妄により治療継続、入院継続の困難さが多くみられるようになりました。当院にとって、精神科治療は専門外であり、ひょうごこころの医療センターとのリエゾン事業は、私たち医療従事者にとっても、患者にとっても、とても大切な機会となっています。

今年度は、毎週定期的に、ひょうごこころの医療センターから精神科の医師を迎えることができました。入院中の患者の、認知症の周辺症状や、せん妄、摂食障害や不眠、精神科疾患の悪化に対し、問診を行い、治療薬の選択、使用方法や使用量、日常生活援助へのアドバイスをいただきました。

毎週、定期的に患者の経過を診ていただけることで、内服の量やタイミングを調整でき、又、使用薬を変更するタイミングが早くなり、以前のリエゾンと比べ、患者の症状が目に見えて変化する事例が増え、治療の経過が大切であると実感しました。

食事量が増え、希望する施設への入所が決定した事例や、昼夜逆転が改善し、在宅での介護が可能となる事例もありました。

医師の問診のなかから、患者の生きてきた道、大切にしてきた思い、楽しみ、習慣などを知り、患者に寄り添い、共感し、狭いカーテンの空間で暮らす時間をできる限り短くできるように、共に残された患者の人生を考えていかなければならないと学びました。

【病床運営について】

当院には、一般病棟・地域包括ケア病棟・療養病棟・介護医療院と役割の異なった病棟があります。当院かかりつけの患者や救急搬送で入院となった患者以外にも、三次救急での治療を終了し、治療の継続が必要な患者、治療後、生活の場を変更しなければならなくなった患者、術後のリハビリが必要な患者、今後、当院での訪問診療を開始し、在宅サービスの調整を行い、地域で暮らしていくためのサポートが必要な患者等、受け入れさせていただいております。又、独立行政法人自動車事故対策機構ナスバとの連携で、自動車事故により、重度障害を負った方のレスパイト入院も定期的に受け入れました。

入院患者及びその家族には、それぞれの病棟の役割や特性を十分に理解していただき、療養生活を送っていただきたいと考えております。他院からの紹介入院に関しては、ソーシャルワーカーと共に、入院前面談を行い、当院を知っていただくと同時に、患者の入院前の様子や、今後の生活について、又、家族の思いなどを聞き取り、共に考えていく時間を作っています。

患者の病状や治療内容、治療に係る日数、退院後の生活の場などを考え、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーなど多職種でカンファレンスを行い、病床の運営を行っております。

今年度は、コロナの影響や、看護師の退職により、入院病床をすぐにご用意できず、大変ご迷惑をおかけしました。

これからも、連携を密にとり、患者様、ご家族様に安心して当院での入院生活を送っていただけるように、取り組んでまいります。

看護部　副看護部長　吉田　ゆう子

□ 療養病棟科

２階本館病棟は 42 床で医療療養病棟です。３階本館病棟は、48 床で維持透析患者がメインの病棟になっています。長期療養目的の患者様がメインではありますが、そんな中、退院支援も行っており最終目標が在宅であれば、その前段階として施設入所をめざし、ADL の向上などリハビリと連携しながら取り組んでいます。

昨年末は３階病棟がコロナクラスターとなり、病棟をよぎなく閉鎖することになりました。さらに職員も陽性者が数名でました。５階病棟を一時的に閉鎖することでスタッフの応援体制をとり危機を脱することが出来ました。家族の面会はオンライン面会としコロナで亡くなられた患者様に対しても、最後にオンライン面会で対面していただきました。

看取りも含め、患者様に寄り添う看護・介護が提供できるよう日々努力しています。

療養病棟　師長　竹田　悦子

□ 介護医療院

介護医療院は、１８名の入居者がおり、令和４年度は３名の方を看取り、新たに３名の方が入所されました。

面会制限が続くなか、行事ごとも最小限で行い、ご家族様との交流もなかなかはかれませんでしたが、徐々に面会緩和となり、一時中断していたお昼の体操も再開し、

入居者の方の表情も明るくなってきました。

制限中は、日頃の生活の一部を写真撮影し、ご家族様が荷物を届けられたときに、写真をお渡しし、大変喜んでいただきました。

2019 年 4 月に開院以来、「その人らしく暮らす」を目標に、入居者の生活支援を行ってきました。今後も、潤いのある生活を提供できるよう支援していきたいと思います。

介護医療院　師長　長井　由美

□ 腎・透析センター

看護師　５名　臨床工学技士　８名　クラーク　１名　ＣＷ　１名

透析患者月平均 91 名、転入患者 47 名、転出患者 34 名、死亡患者 17 名とほぼ例年通りの透析患者数であった。昨年 12 月にコロナの院内クラスターが発生し、一度に 20 名のコロナ患者の透析を行う事態になった。その間スタッフも数名コロナに罹患したが、他部署の協力で乗り切ることができた。その後も外来透析患者がコロナに罹患したが感染拡大させることなく収束した。

外来患者は多くが当院の送迎を利用しており、有熱時の対応などを徹底させる事で外来患者への感染拡大が起こらなかったと考える。新規導入患者数は 3 名で、導入後は当院へ通院されるケースが多かった。引き続き導入間もない患者や高齢患者にも onlineHDF を導入し長期療養患者の合併症予防にも力を入れていきたい。

今後もスタッフ一同新しい取り組みを行っていきたいと考えている。

腎透析室　副師長　草葉　ユカ

□一般病棟科

4 東一般病棟では、急性期病棟として主に救急搬送等の緊急入院や整形・外科手術、眼科手術の受け入れを行っています。病床制限下での運営が続いていますが、限られた病床の中でもできる限り入院早期から退院支援を行い患者さんが安心して退院できるよう、また安心して他病棟へ転棟出来、急性期治療を必要とする患者の受け入れがスムーズに行えるよう退院支援にも力を入れてきました。
また、昨年に引き続きコロナ病床を確保しながら運営しており、スタッフ一丸となり感染対策に取り組む日々が続きました。

2022 年年末には院内クラスターにより５東病棟を閉鎖することとなり、スタッフの半数近くが療養病棟へ応援に行き、東館は一般病棟のみで稼働することとなりました。日々変わる状況の中で他職種で協力しながら患者の安全を確保しながらケアに当たりました。まだまだ厳しい状況は続きますが感染対策をより強化させながら、安全に看護を提供出来るようスタッフ一同頑張ります。

坂野　楓

□ 糖尿病センター　地域包括ケア病棟科

令和 4 年度は「看護・介護の質向上を目指そう！」を病棟目標に掲げ、責任を持って患者を受け持つ、スタッフ全員で患者の情報を共有して話し合う、患者の意思決定を支援する等に力をいれ取り組んで来ました。

しかし、コロナウィルスクラスターにより 5 東病棟は 2022 年の年末から閉鎖されました。入院患者様においては 4 東病棟へ移動していただくことになり大変ご迷惑をおかけしました。

日々の業務は感染対策に追われ、患者様の自立にむけてのリハビリが後回しになってしまったと感じました。また、施設入所が決まっていたのが、感染のため受け入れが延期されることもあり退院調整の難しさを感じました。面会制限が続いていたため、気軽にご家族とお話する機会を持つこともできませんでした。

2022 年度末より面会制限が緩和されご家族とお話できる機会も増えています。ご本人やご家族と積極的に対話し、スタッフ間で情報を共有し、他職種とも協力しより良い退院支援ができるよう努めて参ります。

藤澤　郁代

□外来科

2022 年度は、大きな新しい取り組みはなかったものの、大幅な人員の減少と、オミクロン型のコロナウイルスの発生により昨年度よりもさらに難しい外来運営となりました。しかし、外来スタッフに加えて関係部署の協力・努力により外来患者数・収益を大きく減らすことなく乗り切ることができました。2023 年度にはコロナウイルスの 5 類変更も控えており、今後ますます対応が難しくなることが予想されるため、臨機応変に対応できるようスタッフ一同協力して運営していきたいと考えています。

外来科　科長　三木 康臣

□ 手術科

2022 年度は、コロナ感染症の影響を受け手術件数は 1 割ほど減少しましたが、その中でも整形外科手術は前年比 103%と微増しています。整形外科では、ひろクリニック坂井院長の外来診療に手術室看護師が介助につくこととなり以前と比較し、手術の日程調整や器械の手配等がスムーズに行えるようになっています。斜並列手術にも対応できるようになり、より効率的に手術室運営が実践できました。

中央材料室では安全確実な器械の提供に加え、新入職オリエンテーションで器械を介しての感染管理を重点的に研修しました。

今後も各部署と連携し「手術を受ける患者さんやその家族の心に寄り添う周術期看護」の展開と実践を追求し、質の高い周術期看護を目指します。

手術科　師長　小南　慶子

□クラーク科

現在 16 名のクラークが外来・病棟・透析室・地域連携室で医師事務作業補助者として日々の業務に携わっています。外来クラークは主に診察介助・カルテ代行入力・予約業務・生命保険診断書作成、病棟・透析クラークは入退院書類作成・患者送迎、地域連携室クラークは訪問診療介助、書類作成をしています。新型コロナワクチンの接種介助など前年度から引き続き協力することができました。

新病院開院へ向け業務内容を改善・拡大し医師事務作業補助者として、医師・看護師・事務職員など様々な職種の方と連携し、患者様により良い医療を提供できるようサポートしていきます。

外来クラーク　古賀　志麻

□医療機器管理室

医療機器管理科の主な仕事は透析室業務、医療機器管理業務、医療ガス設備の点検、医療ガスと医療機器の安全管理研修の実施です。

透析室では透析治療に従事しながら、透析液監視装置・水処理装置・透析液溶解装置・透析液供給装置の定期的な保守・点検を実施しています。今年度は中和装置の清掃と透析液溶解装置、透析液供給装置などのメーカーによる定期点検を実施し、安心・安全な透析治療を提供できるように努めました。また病棟のコロナクラスターの発生により、同時に多数のコロナ患者の対応に当たりましたが、外来患者に感染を広めることなく無事に乗り越えることができました。

医療機器管理業務では院内の人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・フットポンプ・セントラルモニター・ベッドサイドモニター・ネブライザ付酸素吸入器・除細動器などの使用前点検・日常点検・使用後点検・定期点検を実施し、常に安全に使用できるように管理しています。また、1 日 1 回の院内ラウンドを日課にし、医療機器に不具合などがあればその都度対応しています。院内の医療機器の老朽化に伴い修理不能な機器の故障が増えていますが、適切な機器に更新できるように提案を行っています。また、今年度は人工呼吸器の緊急立ち上げ時の操作方法が誰でも分かるように、写真付きの手順書を新たに作成し人工呼吸器に取り付けました。他にも医療安全委員会と協力し、インシデント事例が多かった PCA ポンプの取り扱いについての研修会を部署毎に開催しました。

医療ガス設備の点検としては、1 日 1 回のラウンドを実施しています。医療ガス設備全般の老朽化が進

んでいるので、早期発見・対応ができるように努めています。また、医療ガスを正しく安全に使用できるように、学研ナーシングを利用した研修も実施しました。

医療機器管理科　西垣　香織

□ 病児保育室

【病児保育室活動報告】

2022 年度は、４月より常勤保育士の入職を機に、コロナ感染症に関する知識向上と理解感染対策を強化し、受け入れ数拡大を目標に活動を開始しました。

With コロナとして、感染対策の継続、病児保育室内での受け入れ前診察、受け入れ後の消毒作業等を徹底し、安全で安心できる病児保育環境を目指しました。しかし、病児保育室の受け入れシステム上、総合サービス課での電話での受け入れは、時間調整の難しさや、キャンセル対応等、受け入れ窓口を広げる事への課題が多くありました。

神戸市からの推薦もあり、以前より検討したいと考えていた預ける側・あずかる側の様々な問題を解決できるであろう、予約システム「あずかるこちゃん」の導入を本格的に検討しました。ホームページとの連携を図り、２月より稼働することが出来ました。

システムを導入することで、病児保育への登録・受け入れ依頼・キャンセル・キャンセル待ちからの繰り上げ受け入れ・保護者への情報連絡がスムーズにネット上で可能になりました。加えて、受け入れ時に総合サービス課を経由せず、直接病児保育室での受け入れを実施、お迎え時は、会計終了後のお迎えを可能としました。

保護者の皆様からも好評ですが、システム内容と活用手順や周知方法について、より一層良い活用方法を検討・調整を考えております。

引き続き、２０２３年度は、地域の子育て支援の役割が果たせるように、取り組んで参ります。

看護部長　園田　慶子

【病児保育室実績報告】

月別受入数延べ人数　3 年比較　2022 年度（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

2020年

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	平均
延べ人数	11	0	0	5	0	0	0	0	0	1	5	6	28	2.3

2021年

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	平均
延べ人数	15	15	18	19	12	16	20	15	19	13	6	9	177	14.8

2022年

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	平均
延べ人数	15	22	17	24	27	34	38	33	31	34	66	58	399	33.3

→ あずかるこ導入

疾患別年間受け入れ数　2 年比較　2022 年（2022 年 1 月～2022 年 12 月）

2021年

インフルエンザＢ	0
インフルエンザＡ	0
喘息様気管支炎	11
気管支炎	12
上気道炎	86
感染性胃腸炎	5
ヒトメタニューモ	0
アデノウイルス	0
下痢	0
溶連菌感染症	0
中耳炎	2
扁桃腺炎	0
感冒	14
急性胃炎	0
急性咽頭炎	1
ヘルパンギーナ	3
手足口病	1
てんかん	0
突発性発疹	0
RSウイルス	13
水痘	9
おたふくかぜ	1
その他	3
合計	161

2022年

インフルエンザＢ	0
インフルエンザＡ	0
喘息様気管支炎	19
気管支炎	12
上気道炎	124
感染性胃腸炎	21
ヒトメタニューモ	5
アデノウイルス	1
下痢	2
溶連菌感染症	0
中耳炎	4
扁桃腺炎	6
感冒	34
急性胃炎	2
急性咽頭炎	0
ヘルパンギーナ	3
手足口病	3
てんかん	0
突発性発疹	0
RSウイルス	11
水痘	0
おたふくかぜ	3
その他	19
合計	269

『令和４年度を振り返って』

昨年度、診療技術部と事務部が統合し総合支援部となりました。90 名程の大きな部署となりましたが、これまでと同様に技術職・事務職の専門家として診療部、看護部、地域包括ケア部と協働して１年を終えることが出来ました。

一昨年からの新型コロナウイルスの影響は今年度も変わることなく続き、自分達の日常業務を熟す事で精一杯でしたが、問題が起きても都度、それぞれの部署が柔軟に対応出来るなどの変革も見られました。

働き手の減少が進む中、次年度は DX を推進することで業務効率化、医療の質向上を図ります。患者様とご家族、一緒に働く職員とその家族の満足度向上を目指し、地域に必要とされている医療・介護を提供出来るよう努めていきたいと考えております。

総合支援部　部長補佐　杉原麻理子

□ 薬剤科

薬剤科ではこれまでと同様、入院患者さんの薬の準備を始め院内の薬に関する様々な業務に取り組みました。

コロナ禍も 3 年目となり治療薬の点滴・内服薬が発売され使用可能となったことは大きな前進でしたが、いずれも特例承認薬であったため様々な事務作業が必要でした。またワクチン接種も継続し一時はファイザー社製に加えてモデルナ社製ワクチンも取り扱いました。薬剤師としてこれまで経験したことのない感染症治療が展開された 1 年となりました。

部署内では出産、退職、産休からの復帰など人数の変化がありましたが前年に入職した職員の活躍もあり少数精鋭のチームで乗り切ることが出来たと思います。残念ながら服薬指導件数は入院患者さんのコロナ感染の影響もあり目標に届きませんでした。

今後も働きやすく信頼される部署であり続けられるよう努めて参ります。

2022 年度服薬指導算定件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
件数	163	153	195	165	110	156	149	150	75	93	140	174

平均 143 件/月

薬剤科　科長　元持 富見代

□ 放射線科

令和４年度の放射線科は、人員的に４名体制での運営でしたが８月に新卒者の入職があり従来通りの５名体制の人員配置となりました。

放射線科業務に大きく関わる整形外科は、常勤医師２名と非常勤医師３名の５名体制となり外来診療枠も月曜から土曜に増え撮影件数・手術件数も増加となりました。

整形外科の手術件数は、関節鏡手術(31 件)を含む 113 件でした。その他の検査ではエックス線 TV 透視装置を使用する神経根ブロックが 48 件でした。

また科員一人が担当（検査科と共同）しております腹部超音波検査は 123 件でした。

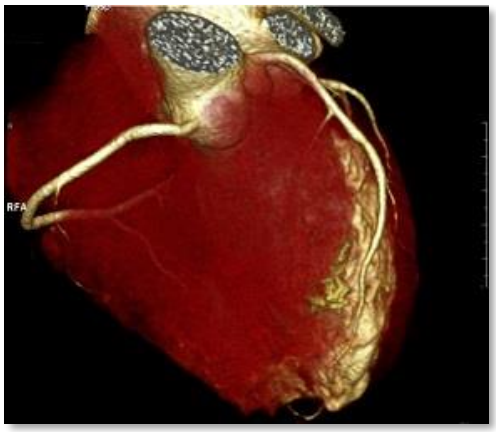
放射線機器装置的に大きく変化はありませんでしたが、昨年導入した 64 列マルチスライス CT を使用した新たな試みとして来年度より心臓 CT を始めることが決まっています。

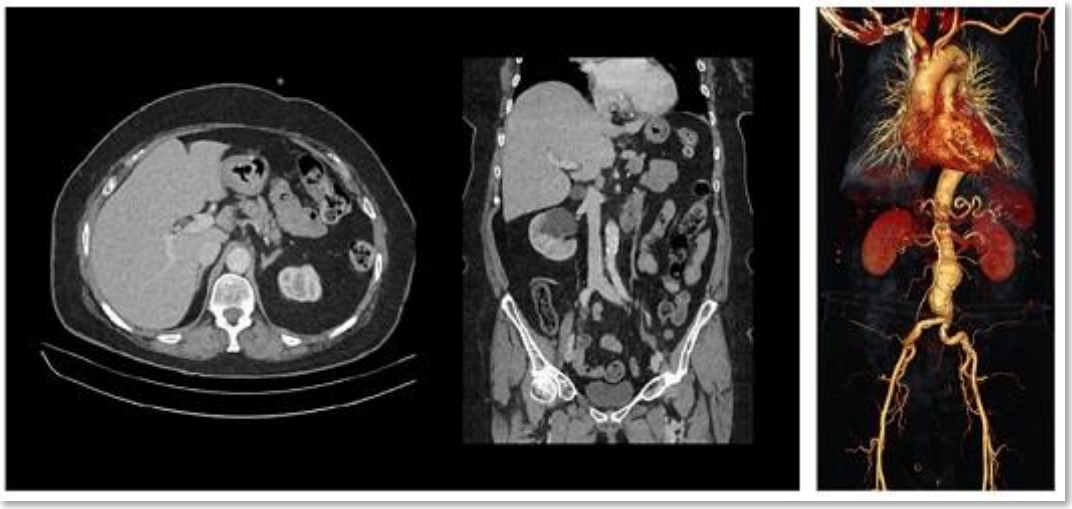
心臓 CT はカテーテル検査と比べ侵襲度低く、安全に冠状動脈の評価が可能となります。

現在、造影剤を使った造影 CT 検査は腹部領域がほとんどの件数を占めますので循環器領域の撮影（心臓 CT や肺塞栓症および深部静脈血栓症疑い）が増え、件数増加が見込まれます。

今後もよりよい病院づくりをめざし、科員全員が自己研鑽し自身の技術を磨き、地域の皆様のさらなる健康増進に貢献するとともに、安心安全を提供できればと思います。

放射線科　三宅　豪





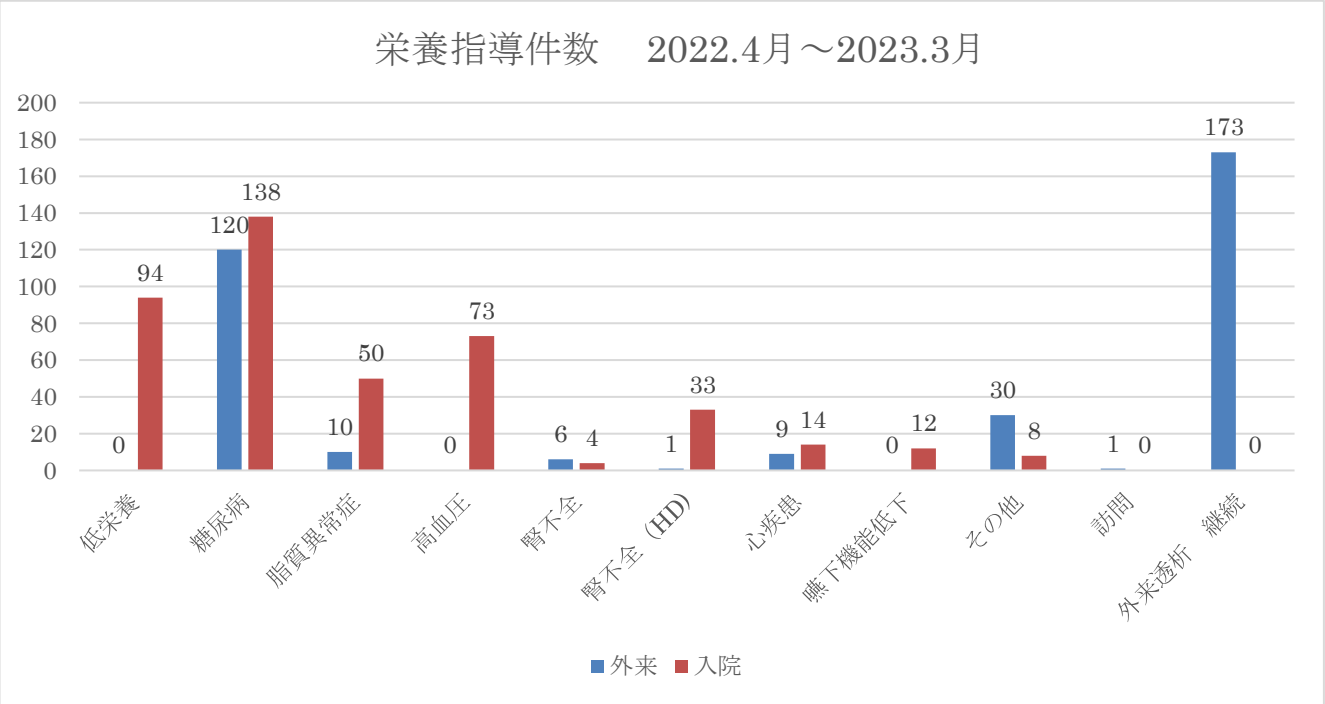
□ 栄養科

令和４年度もコロナの影響を受け、活動制限があり感染対策と対応に注意を払い給食管理、栄養管理を行った。栄養指導の内容は外来の糖尿病、透析患者様に対する継続指導、入院患者様の低栄養が例年通り大半を占めたが、その他に特定保健指導 19 件、小児科の栄養相談７件と多いのが特徴的であった。年度後半には地域での講演会が徐々に再開され健康維持のための食事についてお話、食事会を行った。

また、１名が病態栄養専門管理栄養士の認定資格を取得した。

今後はコロナでの活動制限は緩和されていくため、入院・外来患者様はもとより在宅にも栄養の専門知識を持って活動の場を広めていきたい。

令和４年度 栄養指導件数 ： 776 件　〔入院：426 件、外来 350 件〕



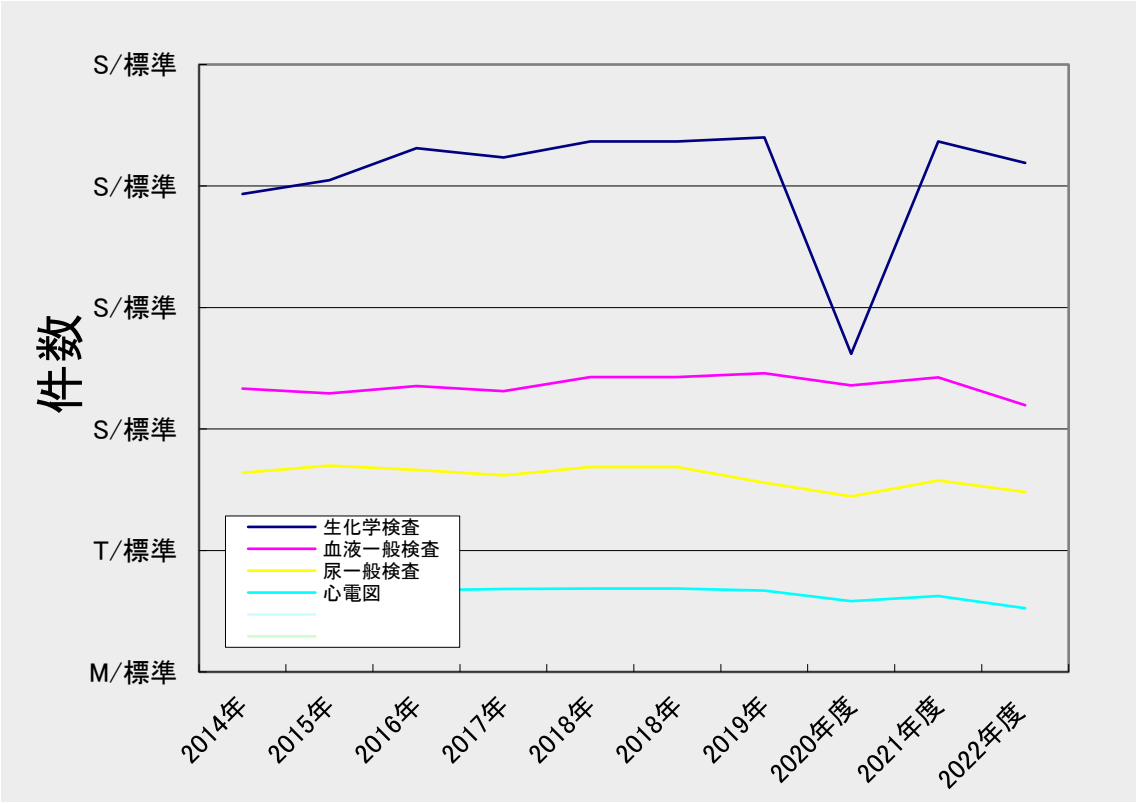
栄養科　　戸次　由実子

□ 臨床検査科

スタッフ：臨床検査技師　6 名（常勤者：4 名　非常勤：2 名）
2022 年度は、院内のクラスター等による病棟制限があり、検査件数は減少しました。コロナが増えるとともに、職員の感染もあり人員調整が困難な時期もありました。今年度はコロナも 5 類になり、検査件数も増加することを期待します。

南出　有利子（係長）

検査件数	生化学検査	血液一般検査	尿一般検査	心電図
2016 年度	21553	11768	8320	3365
2017 年度	21172	11554	8094	3419
2018 年度	21831	12130	8433	3431
2019 年度	21999	12293	7792	3345
2020 年度	13091	11795	7226	2907
2021 年度	21831	12122	7880	3130
2022 年度	20945	10979	7403	2623

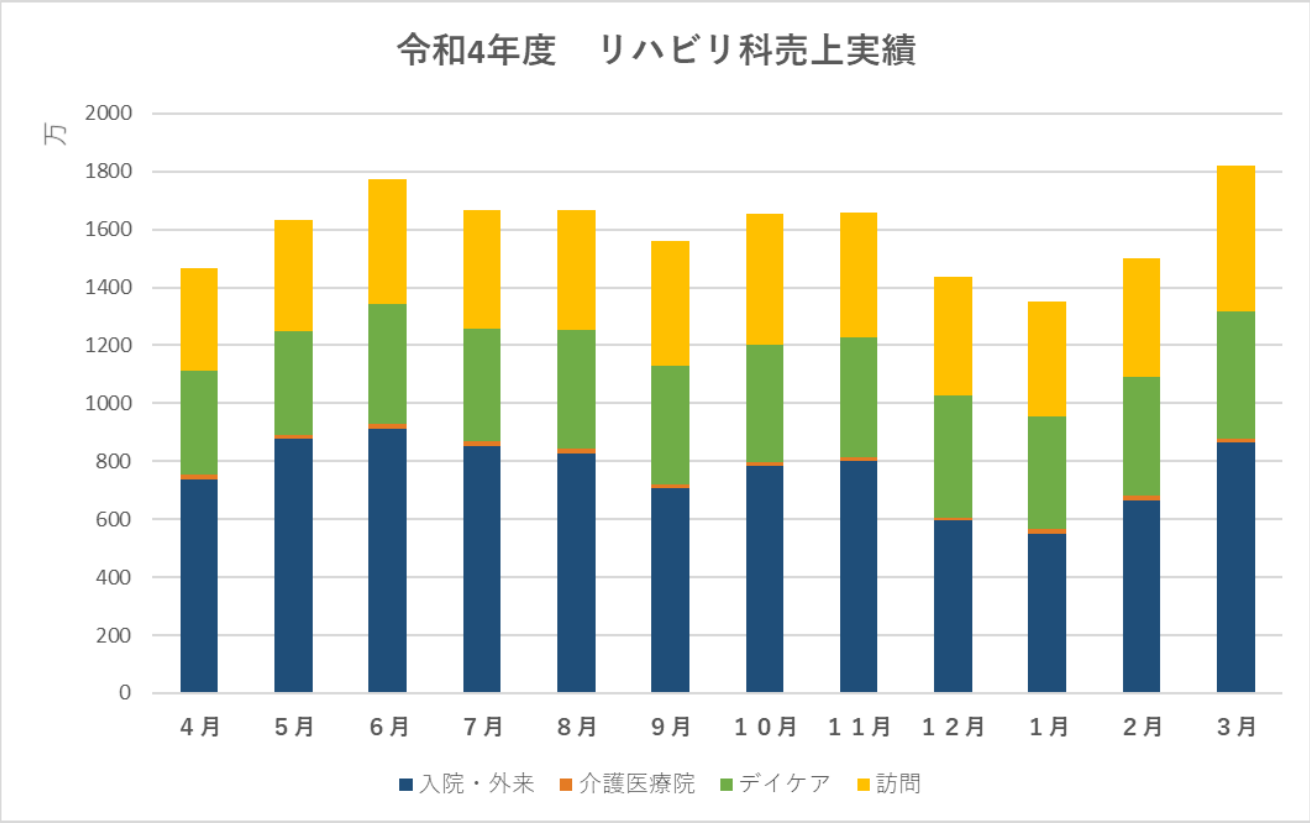


□ リハビリテーション科

【リハビリ】

入院リハビリは、12 月～2 月にかけて新型コロナウイルスに伴う病棟閉鎖やリハビリ中止に伴い、実績減少が生じた。外来リハビリは、整形外科や小児科からのリハビリ処方数が増加したことにより、実患者数は昨年度より 1.5 倍増加した。デイケアは他事業所からの紹介数や入院・外来リハビリからの移行者増加に伴い、年間延利用者数が昨年度より約 13%増加した。

リハビリテーション科　係長［院内リハビリ担当］　内藤　涼介

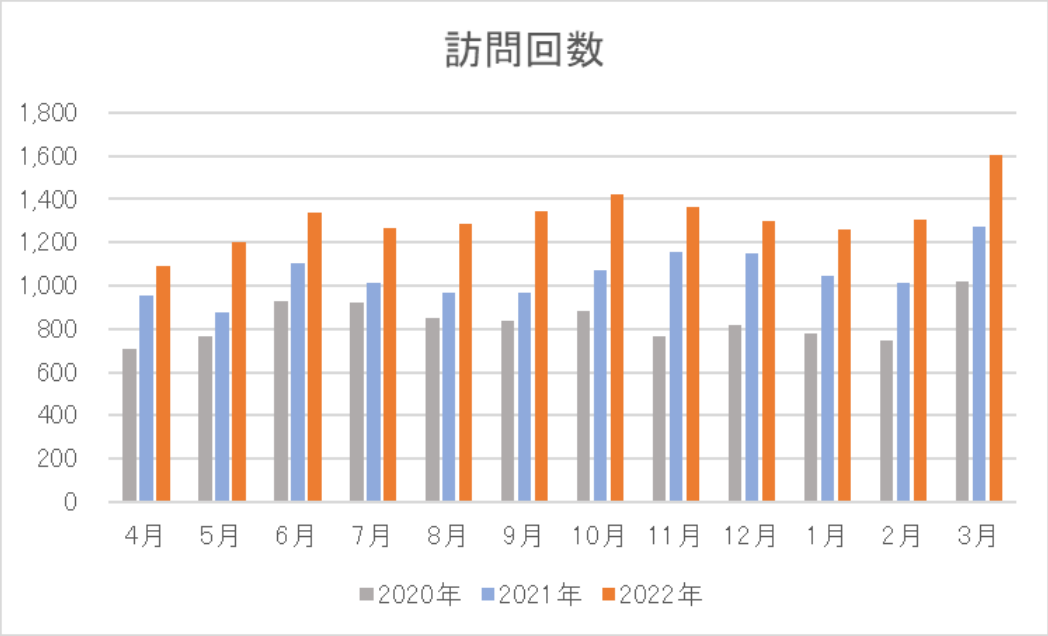


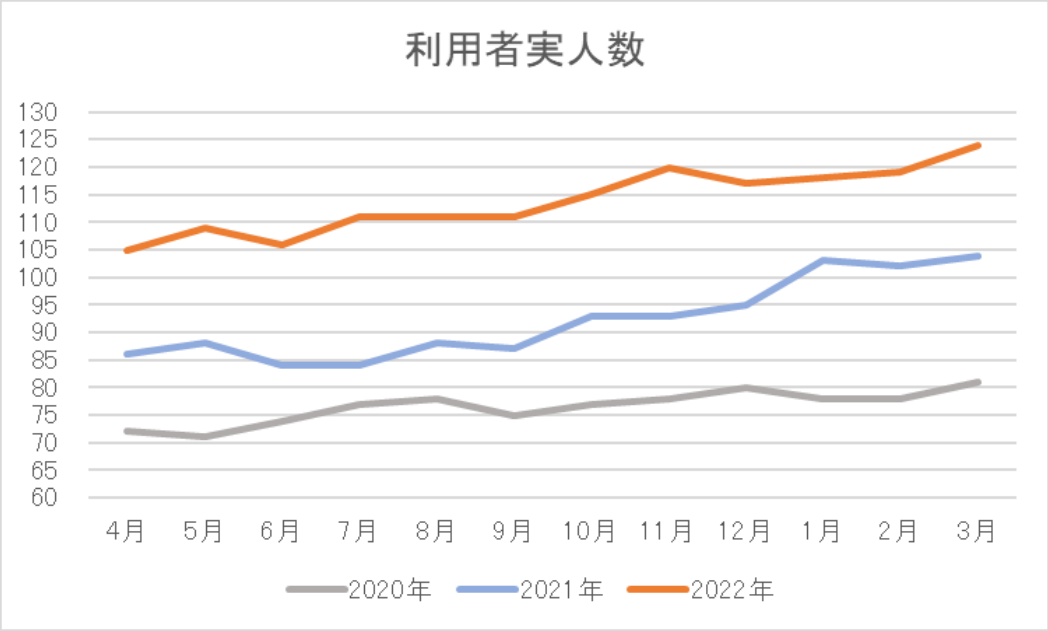
□ 訪問リハビリテーション科

2022 年度の訪問リハビリはコロナ禍による影響も減少し、依頼数は増加傾向となっています。2020 年 4 月と比較すると利用者実人数は 72 名から 124 名(172%)、回数は 706 回から 1601 回(221%*1)と大幅に増加しています。院内リハビリの兼務者に加え、昨年末に職員が増員されましたが、常にスケジュールは過密となっています。地域の高齢化に伴い、今後更に訪問の需要が高まっていく事が想定される為、受け入れが困難とならない様､2024 年度の同時改正の動向を見極めながら体制を構築していく必要があると考えます。

*1 2020 年 4 月コロナ拡大によるキャンセルの影響あり

訪問リハビリ科　係長　寺岡　真悟





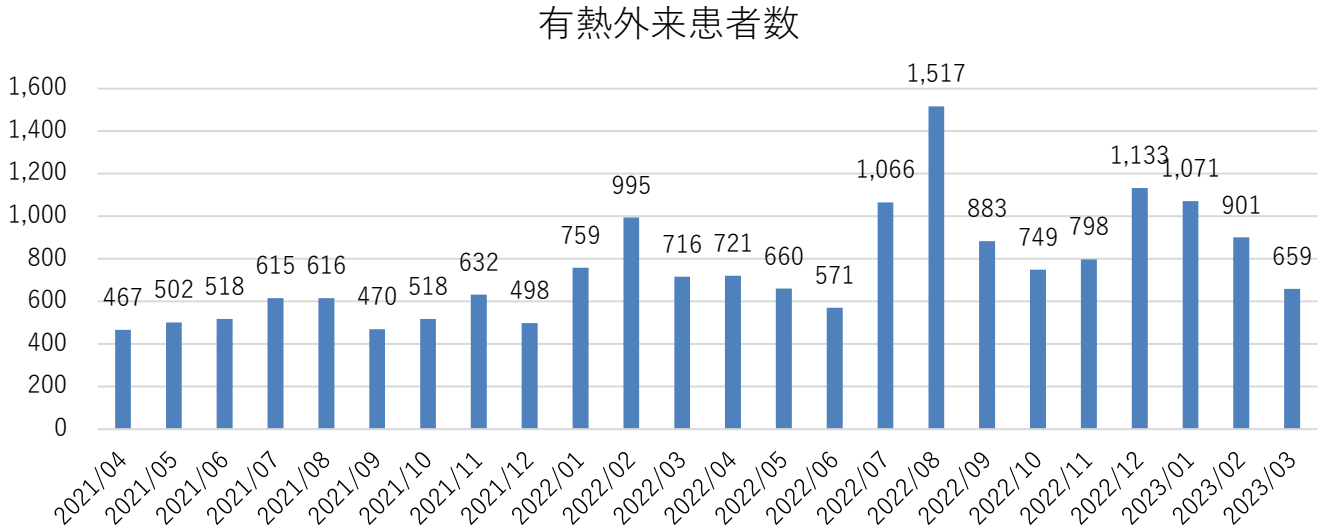
□ 総合サービス課

【令和４年度を振り返って】

令和 4 年度は、新型コロナウイルスの第 7 派と第 8 派に襲われたため、有熱外来への対応に追われた年でした。昨年度の当初に比べ、今年度に入って倍近い発熱患者さんが受診されました。有熱外来は西側駐車場のコンテナハウスで行っているのですが、そちらに配置する総合サービス課のスタッフも 1 名から 2 名に変更して対応しました。このため、院内は通常より 1 名少ない状態となっており、そこにワクチン接種や有熱外来に関する問い合わせや予約の電話が殺到してくるので、電話が繋がりにくい状態となっています。この問題を少し手も解消するため、パソコンやスマホで診察の予約が取れるように準備を進めています。

また、メドレー社の「CLINICS」というアプリを使用したオンライン診療も始めました。利用された方々からは「すごく便利」と好評をいただいております。まだ今は鎌倉医師のみの対応となっていますが、順次拡大していく予定です。

総合支援部　部長補佐、総合サービス課　課長、システム情報課
高木　和喜



□ 総務課

■総務課 人員

1. 人事係　…　 2 名(期首 2 名)
2. 経理係　…　 3 名(期首 2 名)
3. 庶務係　…　12 名(期首 14 名)

■年度総括

令和 4 年度は、総務課に新たな職員が加わり、装い新たな運営となりました。かくいう私も今年度から総務課を担当することになったため、経験豊富な課員達に支えてもらい何とか運営できた 1 年でした。

人事部門としては、職員の確保が重要な課題といえます。新型コロナウイルスの影響もありますが、外部環境との獲得競争、職員満足度向上による離職防止の取り組みといった対応が急務と考えています。総合支援部長と総務課で採用活動に尽力した結果、入職者 53 名(前年比+15 名)と多くの職員を確保できましたが、退職者 44 名(前年比+9 名)と退職数も多い 1 年でした。また、入職者は非常勤者の割合が多く、退職者は常勤者の割合が多いこともあり、充分な人材確保には至りませんでした。

経理部門では、昨年度に新しい職員を迎え、期中にも新しい職員が 1 名加わり、新しい体制での運営となりました。長年勤めてくれていた現職者も次年度には退職されるため、業務継承が急務となっていますが、双方力を合わせてくれており順調に進んでいます。また、インボイス制度や電子帳簿保存法等にも対応できるよう準備していきます。

庶務部門では、期中に 2 名減員した中での運営でしたが、課内で協力し合い対応した 1 年でした。送迎分野では事故の減少、職員の高齢化、運転技術の維持等が今後も取り組むべき課題です。また、設備面では建物の老朽化により様々なトラブルが発生していますが、課員で修繕・対応しているケースも多く、大いに経費削減に貢献できたと思います。これからも治療・療養・労働環境の改善に寄与していきたいと思います。

総務課　課長　大森 嘉顕

□ 庶務用度係

1.　2022年度の振り返り

① 新型コロナ感染予防のため、送迎車両や路線バスの車内掃除、座席などのアルコール除菌、空気の入れ替えなどの対策をすすめるとともに、来院される乗降客の方には、マスクの着用をお願いしました。

② 車両運転の最大の目標である、人身事故ゼロ、物損事故ゼロ、車内事故ゼロの「トリプルゼロ」を目指しましたが、2022年度は物損事故が4件発生しました。車両運転は「乗車いただく患者さま、来院の皆さまの生命を預かっていることを肝に銘じて」、交通法規を遵守するとともに生活道路を運行する運転手として始業点検、スピードの抑制、車間距離の確保、一旦停止表示等を守る、急加速、急ブレーキなどを避ける等含め「安全運転」に努めてまいります。

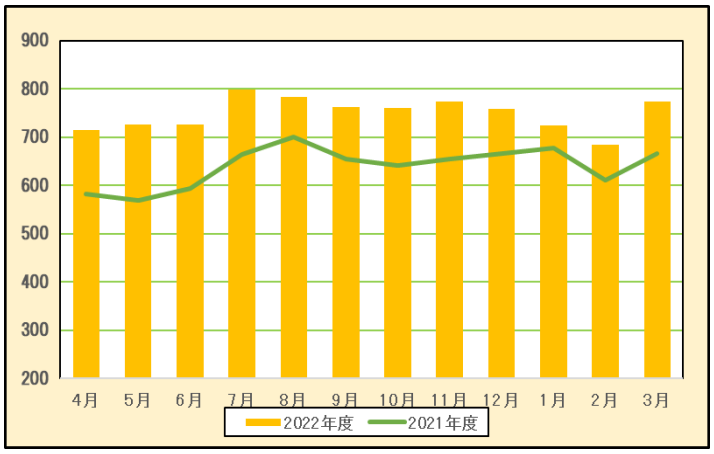
③ 施設内外の営繕、施設外の植栽や鉢花の管理など環境美化に努めました。23 年度も継続・強化をはかってまいります。

④ 2022年度の振り返りで送迎の主たる業務である「外来透析送迎の状況」を腎・透析センター調べによる数値から実送迎人数を庶務用度係で推計しました。実績として年間では約9，000人の患者さまを送迎しています。今後とも高齢化、透析年数の長期化からくる合併症により独歩から車イスの使用移行、認知症などの進行などにより家族や本人運転による来院の中止などによる透析送迎の要請に応えるべく関連部署との連携を一段とすすめ、出来る限りご要請に応えたいと考えています。

2.　外来透析送迎の状況

外来透析(家族送迎、マイカー来院を除く)の2022年度の年間実利用人数は表-1の通り8,963人と推計しています。これは2,021年度よりプラス1，303人、前年比117.0%となります。月別に見ても2022年度は図-1のグラフのように全ての月で前年を上回りました。

図-1　外来透析送迎実利用人数の前年比較



この要因としては高齢化による家族送迎の中止、透析による合併症などからくるマイカー運転での来院の中止など透析送迎の要請が増えていることがあげられます。庶務用度係では要請に応えるべく送迎時間シフトの変更、透析曜日の変更、緊急に発生するコロナ陽性の方への個別送迎などを実施し対応しています。

また高齢化進行に伴う体力低下や透析長期化の合併症により独歩から車イスの使用移行、認知症などの方への対応など手助けの必要な方が増えています。

2023年度も患者さまの状況を考慮し関連部署との連携を一段とすすめ、外来透析送迎の取り組み強化に努めてまいります。

表-1　外来透析送迎実利用者数の推移　　単位＝人

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
2021年度	送迎利用者数	44	43	45	48	51	50	49	50	51	52	51	51	585
	月間実利用人数	582	570	594	664	700	654	642	654	666	678	612	666	7,682
2022年度	送迎利用者数	55	56	56	62	58	59	59	60	57	56	57	60	695
	月間実利用人数	714	726	726	798	783	762	761	774	759	725	684	774	8,986
前年比較	前年差	132	156	132	134	83	108	119	120	92	47	72	108	1,303
	前年比	122.7	127.4	122.2	120.2	111.9	116.5	118.5	118.3	114.0	106.9	111.8	116.2	117.0

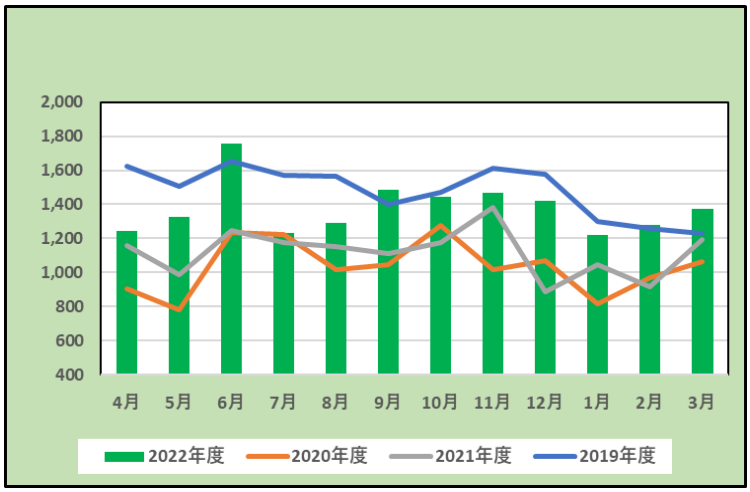
注）①利用者数は腎・透析センター調べ。庶務用度係で算出し表を作成。　②送迎稼働日数は年間313日（日曜日除き週6日送迎）
③送迎利用者数は家族送り、マイカー来院を除く実送迎人数。④実利用人数は年度期中の10月を基に概算で算出。

3. 路線バスの状況

路線バスの乗降客数(表−1 参照)はコロナ発生前の2019年度と比較して20年度は—5，693人、69.1%と約7割に減少しましたが、21年以降は前年をオーバーし、22年度は対19年度比で92．0%、約9割に回復しました。特に顕著なのが(図−1　参照)今年2月以降 19年度をオーバーするご利用があり回復基調が続いています。

22年度期中まで運転手は2名のローテーションで運行していましたが、現在は4名のローテーションに変更をしており、23年度も引き続き「明るい挨拶と配慮ある応対」など、サービスレベルの向上に努めてまいります。

図−1　路線バス月別乗降客数の状況



表−1　新型コロナ以降の乗降客数比較

単位=人

	前年差	対19年度比
２０１９年度	−446	100.0
２０２０年度	−5,693	69.1
２０２１年度	1,015	74.8
２０２２年度	3,104	92.0

表-2　　２０２２年度　路線バス乗降客数の推移　　単位＝人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
2019年度	1,626	1,505	1,653	1,572	1,566	1,400	1,473	1,613	1,574	1,298	1,256	1,226	17,762
2020年度	905	781	1,237	1,220	1,015	1,046	1,277	1,018	1,070	814	969	1,063	12,415
2021年度	1,158	989	1,246	1,175	1,152	1,110	1,178	1,382	888	1,044	914	1,194	13,430
2022年度	1,246	1,326	1,754	1,231	1,291	1,484	1,442	1,467	1,420	1,222	1,276	1,375	16,534

参考資料—1　唐臺-大池方面、路線乗降客の推移　　単位＝人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
2021年度	813	678	802	734	750	814	815	974	471	730	667	909	9,157
2022年度	803	906	1,024	727	772	899	845	912	917	774	814	774	9,590
前年差	−10	228	222	−7	22	85	30	−62	446	44	147	−135	433

参考資料—2　谷上-花山東-花山台方面、路線乗降客の推移　　単位＝人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
2021年度	345	311	444	441	402	296	363	408	417	314	247	285	4,273
2022年度	350	310	591	393	383	439	438	410	385	330	335	471	4,835
前年差	5	−1	147	−48	−19	143	75	2	−32	16	88	186	562

参考資料—3　岡場-有野台方面、路線乗降客の推移　　単位＝人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
2021年度	76	70	85	77	89	84	107	99	118	86	75	90	1,056
2022年度	77	84	91	81	91	115	129	109	100	104	113	104	1,198
前年差	1	14	6	4	2	31	22	10	−18	18	38	14	142

参考資料—4　淡河方面、路線乗降客の推移　　単位＝人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
2021年度	27	26	36	39	46	29	69	28	28	34	36	19	417
2022年度	16	26	48	30	45	31	30	36	18	14	14	26	334
前年差	−11	0	12	−9	−1	2	−39	8	−10	−20	−22	7	−83

注)方面別乗降客の比較では唯一淡河方面が前年を割り込んでいる。

□ 在宅診療

令和４年も訪問診療に従事する医師の体制に変更はなく、居宅は愛新、石井医師の 2 名。スーパーコートは愛新、堀井医師、鎌倉名誉院長の３名が担当し、おかば学園は村田医師が継続して訪問しました。居宅の患者は癌末期などの重篤な患者や利用者の強い希望がある場合を除き、基本的には往診回数を月に 1 度にすることで、他院からの紹介を断ることなく、対応することができました。

コロナウイルス感染予防のため、訪問前、訪問時の感染対策も継続しました。コロナウイルスの予防接種も前年と変わらず訪問診療の患者は自宅で、近隣の老健施設にも休日を利用して、積極的に集団予防接種を行い、地域の感染対策に貢献しました。

訪問診療の対照患者やその家族からも数名コロナウイルス感染が発症し、重篤化リスクが高い患者は他院へ紹介し、軽傷者は自宅で治療しました。

居宅の訪問診療患者は月平均 60.9 人。院内紹介は年間 8 件（前年度 12 件）とやや減少しましたが、他院からの紹介は 30 件（同２８件）とわずかに増加しました。他院からの紹介患者のうち 17 名が癌患者でした。

看取り件数は居宅が 15 件（同 14 件）と増加、施設看取りは 15 件（同７件）と大幅に増えました。

また、レスパイト入院はコロナウイルスによる院内クラスターの影響で受け入れができない時期があったにも関わらず、レスパイト入院の延べ人数は 59 人（同５７人）とわずかに増加しました。

毎週木曜日に行っている在宅カンファレンスは継続しました。緩和ケアの勉強会は中止のままでしたが、Zoom を使ったコロナウイルス感染予防の勉強会を院内で２回、近隣の施設を対象に１回行いました。

今年度の５月からコロナウイルス感染が指定感染症２類から５類に引き下げられることになり、感染対策も緩和されるので、定期的な勉強会を少しずつ再開させる予定にしています。

在宅診療 地域包括ケア部部長　愛新　啓志

□ 地域連携室

2022 年度は MSW2 名、看護師 2 名、事務員 3 名の 7 名でスタート、9 月 MSW が 1 名入職し、合計スタッフ数 8 名となった。

2022 年度より退院支援の質を向上させるため、2022 年 10 月～12 月の 3 ヶ月間に退院した患者の担当ケアマネージャー、施設担当者を対象にアンケートを実施した。

アンケート内容は入院時および入院中の情報共有、退院前の情報共有や調整内容、退院後の生活において課題がないかを設問項目とした。

アンケートは計 58 ケースに対して実施、回収は 47 ケース、回収率は 81%であった。

アンケート内容をもとに退院支援担当者で 3 回のカンファレンスを開催、退院支援における改善点等を検討、共有を行った。

退院支援における実績は以下の通り。

退院支援介入患者件数	入退院支援加算取得件数	介護連携指導料取得件数
254 件	183 件	33 件

訪問診療、在宅支援の実績ついては愛新啓志地域包括ケア部長の項目参照。

その他の活動では新型コロナウイルスの影響を受けながらも Web と対面を併用して連携会議等に参加し、地域の医療機関、介護事業所との顔の見える連携が継続できるよう努めた。

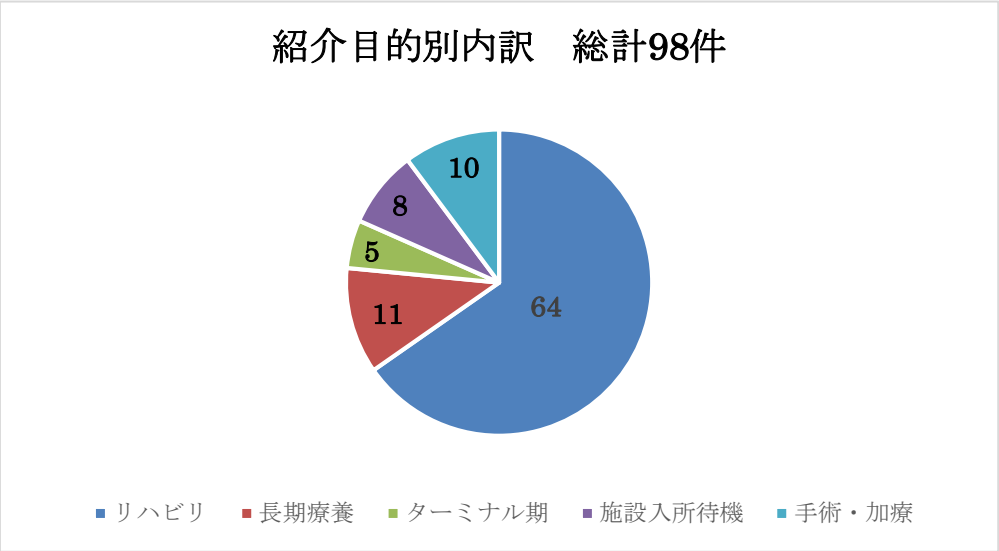
今年度の大学からのソーシャルワーク実習の受け入れ依頼はなく、0 名であった。

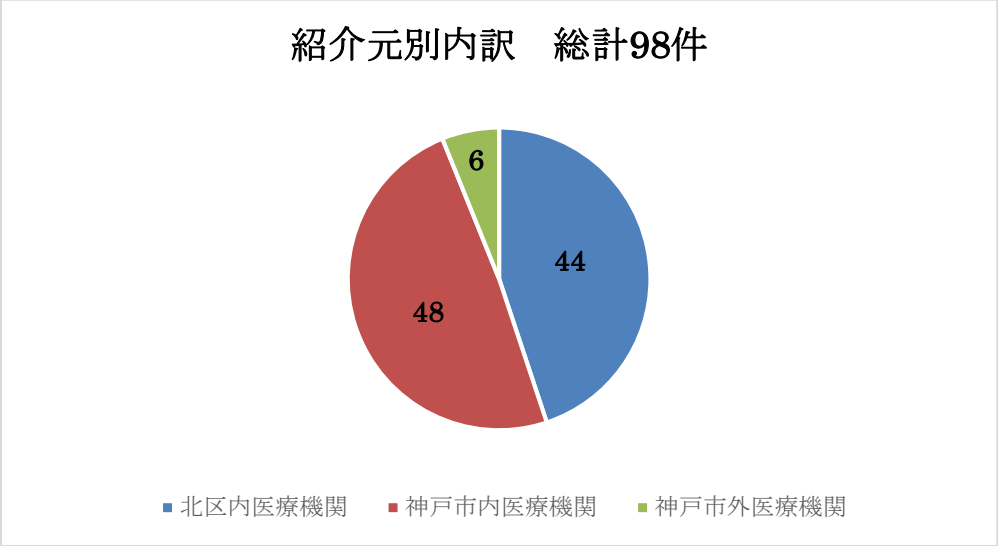
地域連携室スタッフ

役職	氏名	職種	担当業務
室長	真保 友仁	MSW	部署内業務全般
	田中 憧美	MSW	地域連携・退院支援・相談支援
	俵　由夏	MSW	地域連携・入院支援
	加藤 浩美	看護師	訪問診療・在宅支援
	秋山 恵里香	看護師	訪問診療・退院支援・在宅支援
	山本 睦	事務	地域連携・退院支援・相談支援
	岩本 しずか	事務	地域連携・入院支援・在宅支援
	井上 真希子	クラーク	訪問診療・医師事務作業補助

2023 月 3 月末現在

2022 年度　転院紹介患者統計





地域連携室　室長　真保 友仁

□ 通所介護　デイサービスセンター まほしの里

この二年間、美味しい物を食べ元気になっていただきたく、昼食や手作りおやつに力を入れてきました。

結果、「里は美味しい」の言葉を頂ける様になりました。

お寿司、カツ丼、カレーなど大評判です。みたらし団子やおはぎも喜ばれています。

さあ元気になられた利用者さんです、次は今の元気を維持していただくには、自分でやれる事は自分でする「自立」から、自分を律して生きていく方向に変えていく必要があります。

高齢者の方々の意識は大きく変わりつつあります。人に頼る人生より、自分の力で残された日々をより良く楽しく生きようとされている方が増えているのです。

私達はその思いを尊重していきたいと思います。まずは利用者さん同士、助け合い励ましあえる関係になっていただけるよう援助していきます。その方法として豊かな食、リハビリ、レクレーションの充実に職員一同力を合わせ、活気あるデイを目指します。

よろしくお願いいたします。

まほしの里　センター長　鎌田　千津代

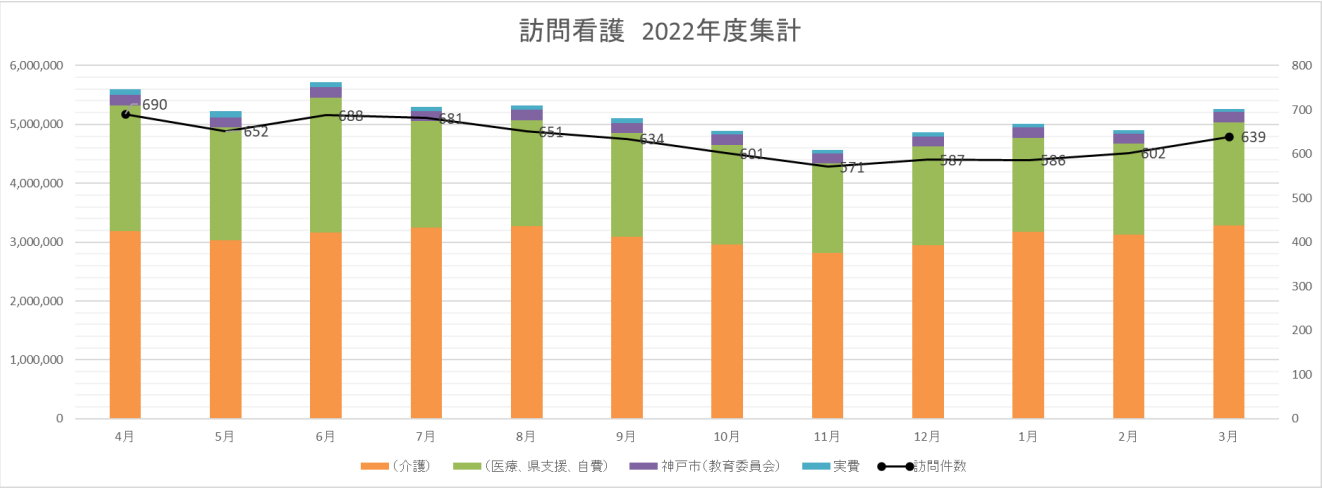
□ 訪問看護ステーションまほし

本年度４月に管理者として玉元明子が就任。10 月に新入職１名を迎え看護師７名となる。新規の訪問看護依頼は全て受け入れているが、コロナ感染で訪問看護を控える利用者や入院、死亡、施設入所する利用者も増加し、訪問件数はやや減少した。本年度も同行訪問を活発に行い、日々情報共有に努め、スケジュール調整につなげている。在宅診療部、地域連携室、居宅支援事業所等との連携も引き続き強化し、地域医療の発展に貢献したい。

訪問看護ステーションまほし

訪問看護　2022年度集計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入	5,592,905	5,227,685	5,713,703	5,301,233	5,322,005	5,109,924	4,894,166	4,570,594	4,861,516	5,005,393	4,906,302	5,264,828	61,770,254
（介護）	3,182,407	3,034,761	3,159,899	3,242,369	3,275,161	3,092,010	2,962,852	2,815,060	2,944,212	3,171,932	3,123,268	3,288,494	37,292,425
（医療、県支援、自費）	2,141,810	1,915,640	2,299,820	1,815,480	1,799,660	1,757,030	1,688,130	1,518,550	1,680,420	1,600,777	1,551,050	1,749,160	21,517,527
神戸市（教育委員会）	173,488	173,484	173,484	173,484	173,484	173,484	173,484	173,484	173,484	173,484	173,484	173,484	2,081,812
実費	95,200	103,800	80,500	69,900	73,700	87,400	69,700	63,500	63,400	59,200	58,500	53,690	878,490
訪問件数	690	652	688	681	651	634	601	571	587	586	602	639	7582
新規者数	8	3	2	2	4	7	8	5	8	6	4	9	66
終了者数	6	12	2	6	6	7	7	6	3	4	3	4	66
（うち死亡）	4	3	2	2	1	6	3	3	3	0	1	1	29
（うち在宅看取）	2	3	2	0	0	2	2	2	1	0	0	0	14
利用者増減	2	-9	0	-4	-2	0	1	-1	5	2	1	5	0



□ まほし居宅介護支援事業所コスモス

2022 年を振り返って

この一年間を振り返ると、担当の件数が増加し、新規の依頼があっても手一杯でお断りすることもありました。

４月に事務員の増員でかなり事務の負担が軽減し、ケアマネ業務に専念することが出来るようになりました。

2 月にはコスモスとからとでケアマネの移動があり、年明けから慌ただしかったですが、今は落ち着いています。近隣のあんしんすこやかセンターからの新規依頼が引き続きあり、＜高齢化社会＞を実感しています。

「生きがいある職場」を目指して、次年度もチームで頑張っていきます。

まほし居宅介護支援事業所コスモス　國重　真由美

□ まほし居宅介護支援事業所からと

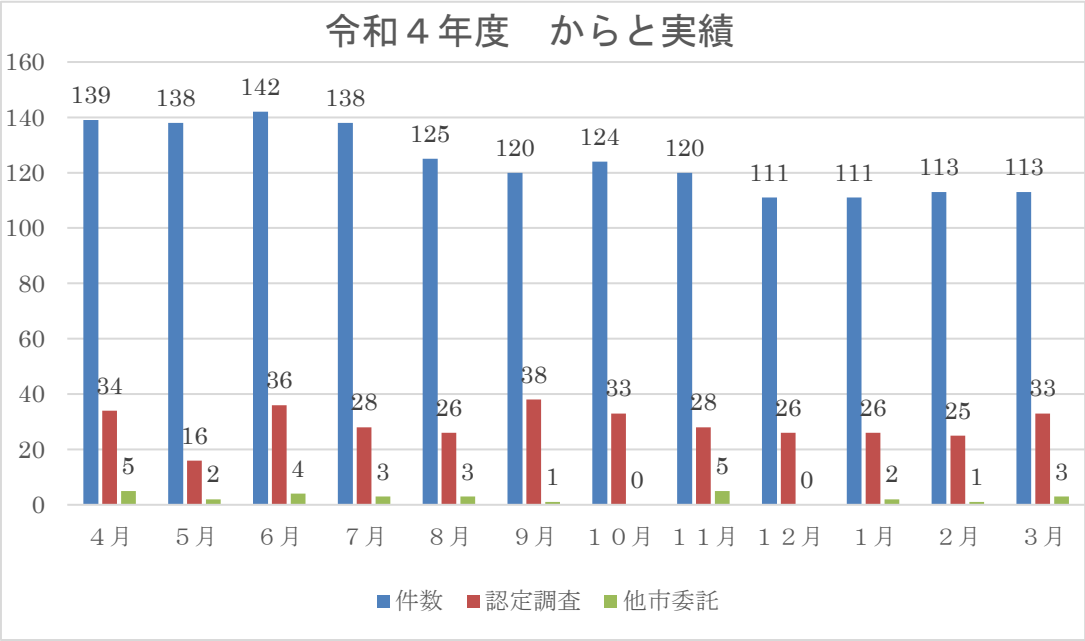
管理者　１名	主任介護支援専門員　１名	介護支援専門員　２名

昨年度は、退職者・移動等で事業所内の変動もありましたが、ようやく業務も整ってきました。職員の減数で件数も１２月以降減少しておりますが新規ケースも受けています。

有馬あんしんすこやかセンター併設居宅として神戸市委託業務である認定調査の実施や困難ケースの積極的な受け入れを行っていきます。

引き続き、同法人内での連携を強化し、地域に根差した居宅介護支援事業所として業務を行って参ります。

まほし居宅介護支援事業所からと
管理者：西樂　ゆかり



関連事業

□ 有馬あんしんすこやかセンター

有馬あんしんすこやかセンター（ 地域包括支援センター）とは？

　あんしんすこやかセンターは神戸市が市内 76 か所に設置する高齢者に関する総合相談窓口です。そのうちの一つの有馬あんしんすこやかセンターは、有馬地区から東大池までの圏域を担当しており、まほし会が神戸市から受託して運営しています。

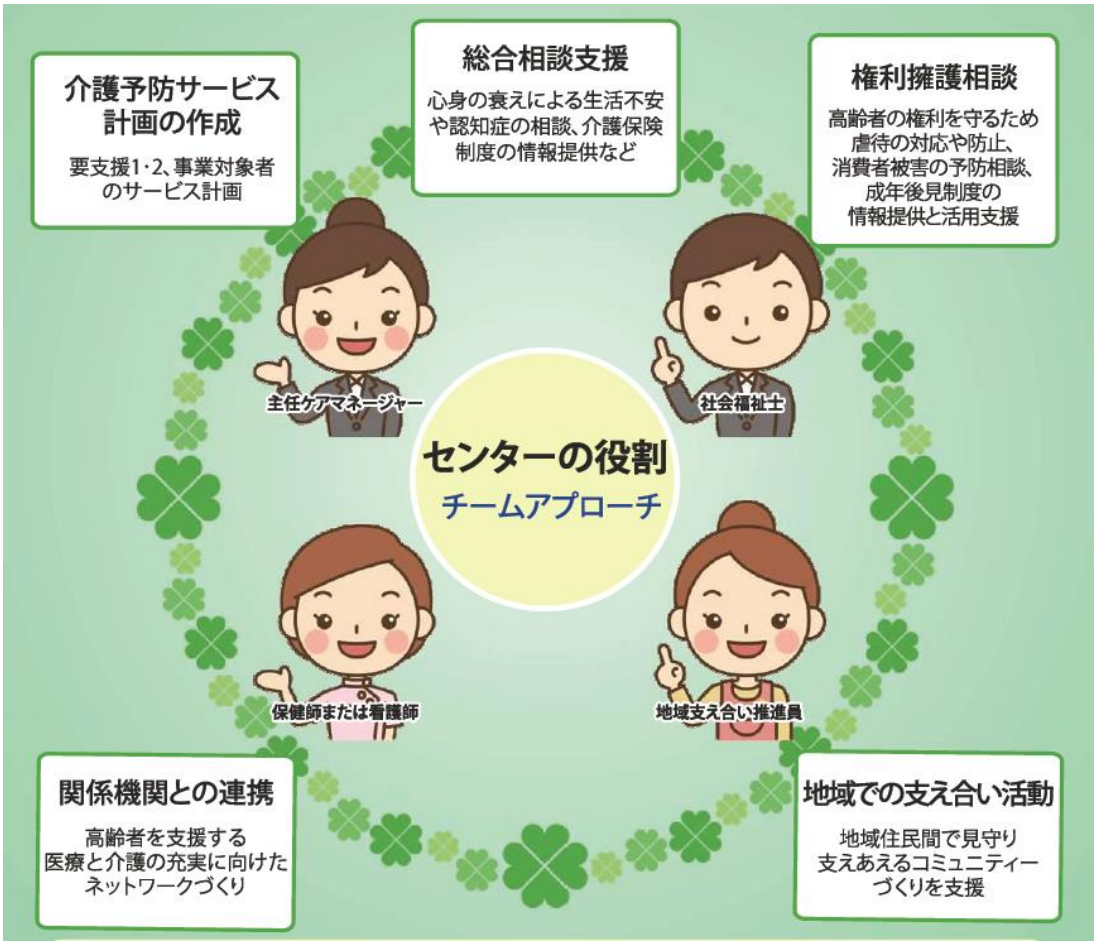
保健医療・福祉・介護の専門職がいます。
専門職が連携して対応します。

・保健師または看護師
・社会福祉士
・主任ケアマネージャー
・地域支え合い推進員
・予防プランナー
・事務員

神戸市が設置しています。

・公的な相談窓口です
・相談は無料です
・相談内容の秘密は厳守します

有馬あんしんすこやかセンター　前山　園実



委員会等の活動報告

□ 教育推進室２０２２年度の活動報告

病院教育委員会は、看護師、ケアワーカー、臨床工学技士、地域包括ケア部、総合サービス課、リハビリテーション科、介護医療院からスタッフが選出され、総勢２０名で運営を行ってきました。

その役割は、教育推進室の活動・ラダー委員・新入職研修担当・新人研修担当・チューターフォロー担当・退院支援担当とそれぞれの担当に分かれ、リーダーのもと、新入職者オリエンテーションの実施、新入職者の３か月フォロー研修の実施、新人看護師、看護師クリニカルラダー研修の一年間の研修計画作成、講師依頼、研修内容の吟味、研修の案内、YouTube の配信、講義の実施、アンケートの作成、アンケートの集計・評価を行います。

又、ラダー委員は看護師クリニカルラダー取得に関する様々な業務を連携して行っています。ラダーシステムが導入され、６年が経過しました。現在では、ラダーレベルⅠ～レベルⅣまで、順当にばらつきがみられるようになりました。

今年度は、コロナの感染者状況や院内クラスターの状況を見ながら、集合研修と YouTube 研修、zoom 研修、オンデマンド研修を交えて、日程を調整しながら、期首の計画に沿って研修を実施しました。

次年度も、YouTube 配信を軸に、集合での技術研修を交えながら、教育活動を継続します。

●院内研修【2022 年度（2022 年 4 月～2023 年 3 月）】

新人看護師研修

日時	研修名	研修内容	講師
5 月 12 日	薬剤科研修	抗菌薬・ウイルス薬の適正使用について	元持科長 中住薬剤師
6 月 2 日	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い	輸液ポンプ・シリンジポンプが正しく使用できる	臨床工学技士 松任・廣田
6 月 2 日	体位ドレナージと 呼吸リハビリ	体位ドレナージの理解・適用・方法が分かる	理学療法士 小﨑
10 月 13 日	エンゼルケア	尊厳を守るエンゼルケアが出来る。グリーフケアの重要性	猪原准看護師
10 月 13 日	新人看護師 6 か月振り返り研修	看護師 6 か月を振り返る	教育担当者
11 月 15 日	コスト管理・感染	コスト管理について・感染対策	三木師長
3 月 23 日	新人看護師 1 年の振り返り	看護師 1 年を振り返る	教育担当者

新入職オリエンテーション

4 月 1 日	新入職者オリエンテーション	新入職者オリエンテーション	教育担当者
7 月 15 日	新入職者オリエンテーション	新入職者オリエンテーション	教育担当者
10 月 17 日	新入職者オリエンテーション	新入職者オリエンテーション	教育担当者
7 月 1 日	入職者 3 ヶ月フォロー研修	接遇・災害・救急・手術室・中央材料室・地域連携室について	教育担当者
11 月 1 日	入職者 3 ヶ月フォロー研修	接遇・災害・救急・手術室・中央材料室・地域連携室について	教育担当者
3 月 1 日	入職者 3 ヶ月フォロー研修	接遇・災害・救急・手術室・中央材料室・地域連携室について	教育担当者

ラダーレベルⅠ

日時	研修名	研修内容	講師
4月28日	看護記録・看護診断	看護記録・看護診断を学ぶ	中室師長
5月26日	嚥下障害患者の看護	嚥下障害患者の看護について	竹田師長
7月28日	循環器疾患	循環器疾患	鎌倉医師
8月25日	消化器内科疾患・看護	消化器内科疾患と看護について	堀井医師・赤尾看護師
9月22日	呼吸器疾患	呼吸器疾患について	呼吸器科医師
11月24日	糖尿病治療と看護	糖尿病治療と看護	上田医師
12月22日	眼科疾患・看護	眼科疾患・看護	ORT/手術室･赤尾看護師
1月26日	透析疾患・看護	透析疾患・看護	司尾医師･草葉副師長

ラダーレベルⅡ

日時	研修名	研修内容	講師
4月14日	終末期看護	終末期看護の実践	重久看護師
5月12日	救急・急変時の対応	二次救命処置	谷間・加藤看護師
7月14日	社会資源のしくみ	社会資源のしくみについて	藤澤副師長
8月11日	退院支援連携	リハビリが行う退院支援 ・退院支援のプロセス	中瀬看護師 石邨理学療法士
9月8日	コーチング	コーチングスキル	鈴木氏
11月10日	人工呼吸器の基本	人工呼吸器の基本	松任臨床工学技士 前森看護師
12月8日	家族看護	家族看護	森井看護師
1月12日	ハイリスク薬剤	ハイリスク薬について ・ハイリスク薬の医療事故について	中住薬剤師

ラダーレベルⅢ

日時	研修名	研修内容	講師
4月19日	看護理論	情報のアセスメントの統合を行う ために、看護理論を用いる	中室師長
5月17日	ファシリテーション	ファシリテーションスキルの習得	南副師長
7月19日	急変時の対応・予測・ リーダーシップ	急変時の対応・予測・リーダーシップ	播磨副師長
8月16日	医療における分析の手法	医療における分析の手法	小南師長
9月20日	エビデンスに基づく看護ケア	エビデンスに基づく看護ケア	江角副室長
11月15日	心不全・呼吸不全の フィジカルアセスメント	心不全・呼吸不全のアセスメント	坂野副師長
12月20日	セルフケア能力向上支援	セルフケア能力向上支援について	谷口副師長
1月11日	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて	前山センター長

ラダーレベルⅣ

日時	研修名	研修内容	講師
5月3日	人材育成の基礎理論（総論）	人材育成の基礎理論（総論）	中室師長
7月5日	看護実践に活かす情報管理（総論）	看護実践に活かす情報管理（総論）	中室師長
8月2日	看護チームマネジメント（総論）	看護チームマネジメント（総論）	中室師長
9月6日	問題解決手法	問題解決手法を学ぶ	播磨副師長
11月1日	組織管理（総論）	人の行動を理解し、効果的なチームマネジメントに活用する	江角副室長
12月6日	データを活用した看護管理	データを活用した看護管理について	藤澤副師長

全ラダー

日時	研修名	研修内容	講師
6月23日	コミュニケーションスキル	病院でのコミュニケーション	吉田副部長
10月27日	意思決定支援	意思決定支援について	赤木副師長

全体研修

日時	研修名	研修内容	講師
7月7日	認知症ケア加算研修	認知症周辺症状と看護	認知症チーム
1月13日	看護必要度	診療報酬改定・看護必要度の理解	柘植看護師

発表【2021年度】

5月17日	ケーススタディー	自己の看護を振り返る	小泉・金成・加納・西伯看護師

発表【2022年度】

3月28日	ケーススタディー	自己の看護を振り返る	松本・二宮看護師

教育推進室室長　吉田ゆう子

□ 安全対策委員会

【2022 年度の総括と 2023 年度の取り組みについて】

今年度は、2 件の転倒、転落に関するアクシデント報告がありました。
いずれも対応が早く、スタッフの協力もあり、早い段階で解決することができました。昨年度に引き続き、改善に向けてスタッフの積極的な働きかけにより医療事故防止に努める事が出来た。

今年度は、医療安全管理室の定期的な活動時間を十分に確保し、インシデント管理システムによる評価・分析を細かく行い、医療安全ラウンド活動を通して当院の組織的弱み、問題点を抽出し、医療事故防止に向けて、より一層安全な医療・看護・介護の提供を行います。院内医療安全研修では職員全員参加型の BLS 研修を年間通して実施しています。また、昨年同様、地域連携病院との合同会議を通して、情報交換・共有化を図り、医療安全管理体制の強化にも努めていきます。医療事故調査制度の施行についても県下支援団体連絡協議会等に参加しながら、情報を収集しながら、院内医療事故調査体制の確立化を目指します。

延東　靖浩（医療安全管理室　室長）

①　インシデントレポート件数

【2021 年度（令和 3 年 4 月 1 日 ～ 令和 4 年 3 月 31 日）】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
医局	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
外来	4	10	7	9	10	7	4	9	7	8	2	2	79
2 本	4	3	3	7	4	2	2	2	3	3	0	0	33
3 本	7	9	3	9	2	3	7	4	3	1	4	3	55
介護	2	3	3	8	2	1	4	5	7	0	0	4	39
4 東	6	11	5	3	6	12	7	6	7	8	11	6	88
5 東	5	5	8	8	5	10	10	8	8	0	7	9	83
手術室	0	0	1	1	0	0	0	0	4	2	0	1	9
透析	5	2	9	6	7	4	4	7	0	4	9	6	63
リハ	0	0	1	0	0	1	0	4	0	0	1	0	7
放科	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	1	0	5
薬剤	2	2	3	5	2	4	3	0	5	1	1	2	30
総合	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	5
検査	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	4
栄養	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	4
地包	0	2	0	0	3	0	1	2	1	0	2	0	11
クラーク	5	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	9
合計	40	47	45	56	45	47	45	50	46	30	38	38	527

※地包（地連・訪看／まほしの里含む）　※クラーク（クラーク科）　※総合サービス（総務課含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	割合
薬剤に関する	9	7	11	15	7	5	12	13	12	5	6	6	108	20.5%
治療・処置	3	5	7	2	5	5	4	3	3	1	6	5	49	9.2%
ドレーン･チューブ	1	0	1	4	2	2	2	1	1	0	4	1	19	3.6%
医療機器等	0	1	0	2	0	2	0	1	1	2	1	1	11	2.1%
検査等に関する	2	4	5	9	10	3	0	5	4	1	3	4	50	9.4%
輸血に関する	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1%
療養上の世話	13	20	12	14	10	22	17	17	17	9	14	15	180	34.1%
その他	11	10	9	10	11	8	10	10	8	12	4	7	110	20.9%
合計	40	47	45	56	45	47	45	50	46	30	38	38	527	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	割合
※転倒･転落	9	15	7	10	6	14	12	7	14	5	8	13	120	22.8%

アクシデント報告（２件）

2022 年 6 月 ベッドから 転落・骨折	2023 年 3 月 車イスから 転倒・骨折

② 院内勉強会開催および院外研修会・勉強会への参加実績表

【2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日】

	（院内/院外研修）	研　修　内　容
院内外研修	医療安全全体研修	オンデマンド研修：【人工呼吸器の基礎をおさえよう】（看護師、リハビリ、ME　対象）
		オンデマンド研修：【輸液ポンプ・シリンジポンプのアラームを鳴らさないための基本テクニック】 （看護師、薬剤師、ME　対象）　　※　多職種者希望者があれば自由参加 医療機器研修（実技含）ＰＣＡポンプ（自己調節鎮痛法）※　看護師対象
		オンデマンド研修　：医療ガスの安全管理と事故防止策（全職員対象）
		オンデマンド研修　：医療安全関連研修（２項目全職員対象）
		医薬品管理研修ＤＶＤ研修（全職員対象）
		全職員参加型ＢＬＳ研修（令和４年 11 月～継続して研修実施中）
		真星病院「医療安全管理体制」「インシデントレポート活用方法」新入職者対象（随時開催）
	医療安全研修	神戸市保健所予防衛生課（Web 会議）
		医療事故調査・支援センター（Web 研修）
		医療安全管理者養成研修（オンライン研修）日本医療機能評価機構主催
		日本医療機能評価機構「医療の質可視化プロジェクト」モデル事業参加

③　2022～2023 年度に提出されたレポート分析後の主な業務改善事項

項 番	改善事項
1	医療安全規定、病院組織図を見直し、改訂
2	医療事故対応マニュアル見直し、改訂
3	人工呼吸器の電源場所と緊急開始手順を作成
4	人工呼吸器 air 本体と加温加湿器の電源スイッチ場所と緊急開始手順を作成
5	インシデント管理システムの入力を適正に行えるよう入力項目を追加、変更
6	透析前の体重測定ミス防止のため体重計算方法のマニュアルを作成
7	アレルギー薬の類似薬剤情報について薬剤アレルギー項目を追加変更
8	休日・夜間の麻薬対応について麻薬取り扱いマニュアルを変更
9	転倒・転落予防、情報共有のため転倒アセスメントシートの取り扱い要綱を一部変更
10	薬剤発注忘れ予防策として新規発注カードを作成（全館統一）
11	個人用車イス紛失事例を受け車イスに名札（氏名、施設名、預かり日記載）を付け車イス管理
12	食物アレルギーの記録を電子カルテに反映されるように登録方法を変更
13	ベッド柵つけ忘れ事例に対してベッド柵使用状況が一目でわかるよう全館統一で表示
14	身体抑制（行動制限）に関する説明同意書を変更（離床センサー項目を削除）
15	赤外線センサー、マットセンサーの取扱い、管理方法を変更（保管管理部署を明確にするため）
16	在宅患者に対しての麻薬取り扱い、管理方法を変更（地域連携室に新規で金庫設置、保管）

■ 2022～2023 年度　安全対策委員会　会議開催記録（第 217 回～第 228 回・・・開催場所：会議室）

回数	開催日	ﾋﾔﾘﾊｯﾄﾚﾎﾟｰﾄ報告検証	医療安全情報の近況	その他の主な議事内容
217 回	4 月 7 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） 今年度の目標、活動内容、業務改善事項　等
218 回	5 月 12 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） 今年度の医療安全研修テーマ検討、レポート改善事項　等
219 回	6 月 2 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） レポート改善事項、転倒・転落に関する報告　等
220 回	7 月 7 日	●	●	インシデントレポート報告、医療安全情報 レポート改善事項、医療安全規定の見直し・問題点を抽出　等
221 回	8 月 4 日	●	●	コロナ禍感染対策のためにグループウェア電子会議室にて開催 レポート検討事例後の業務改善事項報告、医療安全情報　等
222 回	9 月 1 日	●	●	コロナ禍感染対策のためにグループウェア電子会議室にて開催 前回会議でのレポート検討事例報告、その他問題点の抽出　等
223 回	10 月 4 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告） 前回会議でのレポート検討事例報告、転倒・転落予防対策　等
224 回	11 月 10 日	●	●	レポート報告、改善事項・他部署への意見・要望等 明日から実施の職員全員参加型 BLS 研修の最終調整　等
225 回	12 月 1 日	●	●	インシデントレポート、他部署への意見・要望等の報告 インシデント管理システムの問題点を抽出、改善　等
226 回	1 月 5 日	●	●	インシデントレポート報告（前回会議での検討事例報告）

				医療安全情報、医療安全 Web 研修に関する報告　等
227 回	2 月 2 日	●	●	コロナ禍感染対策のためにグループウェア電子会議室にて開催 インシデントレポート、他部署への意見・要望等の報告
228 回	3 月 3 日	●	●	コロナ禍感染対策のためにグループウェア電子会議室にて開催 レポート改善事項　等

※　毎週第１木曜日に開催

会議参加者：１９名（安全管理室、各部署安全対策委員【全部署】１名ずつ参加）

■ 2022～2023 度安全管理責任者担当会議開催記録（第 342 回～第 378 回…開催場所：医療安全管理室

開 催	主な議事内容
第 342 回 （4 月 7 日） ～第 378 回 （3 月 30 日）	１・地域医療安全ネットワークの構築
	２・安全管理研修予定計画立案
	３・医療事故調査制度の現状把握、情報収集、研修会参加
	４・報告された事例を基に医療安全対策ラウンド実施（不定期）
	５・問題事例（提出レポート）の原因・分析・調査・改善案を検討、実施
	６・医療安全対策に関する規定を見直し・改訂
	７・提出されたレポートを基に各部署のWチェックを含めた確認方法を調査し、その結果を部署ごとにどのようにフィードバックし、今後の対策とするか検討
	８・ＢＬＳ研修・院内救急対応訓練を病院全体での研修として内容を検討（全員参加型）
	９・各種手術・検査等の説明書及び同意書の内容を変更
	10・医療事故防止マニュアルの見直し・改訂
	11・機能評価受診に向けての準備（規定改訂・マニュアル見直し・情報収集など）
	12・転倒・転落防止に向けての取り組み方法の検討・実施
	13・医療安全、事故防止に関する院外研修参加
	14・事故報告に沿っての現場検証および対応策について検討
	15・医療安全地域連携加算２取得に際し年１回の地域合同連携会議準備・開催

参加メンバー:9 名【安全担当医師・看護部医療安全管理者 4 名・総合支援部医療安全管理責任者 4 名】

（総合支援部：放射線技師、リハビリ、薬剤師、事務員各１名　計 4 名）

※　医療安全管理責任者担当者会議は、１週間～10 日に１度の割合で開催（所用により変更も）

※　医療安全対策ラウンド⇒医療安全管理室メンバーに加え、医療機器管理者１名参加（所用により変更も）

□ 感染対策委員会

活動内容は以下の通り

新型コロナ感染症対策（コロナ対策本部を中心に）

- 第 6 波、第 7 波、第 8 波の流行期を通して必要に応じて会議を開催
- 流行期には院内感染によるクラスターが発生したため隔離区域を設けて対応
- ワクチン接種を継続（ファイザー社製および一時的にモデルナ社製も使用）
- 小児・乳幼児コロナワクチン接種開始（ファイザー社製）
- 入院患者受け入れフローチャートを随時見直し
- 面会制限の緩和（6 月）→禁止（7 月）→緩和（3 月）
- コロナ感染した職員の自宅待機期間の短縮
- 職員の行動制限を段階的に緩和
- 会議・研修を再開

院内感染対策委員会（コロナ感染対策として CESS 電子会議室にて毎月定例開催）

定例協議事項

- 針刺し切傷事故（2022 年度 7 件、前年 6 件）
- 細菌検査サーベイランスレポート（検査科より）
- 抗菌薬の使用状況（サーベイランスレポートに基づく）
- 院外における感染症情報（石井医師より）
- 感染ラウンド報告（各グループリーダーより）

その他の報告・協議事項

- 感染性胃腸炎・ノロウイルス感染症への対応・他部署への伝達など再度徹底
- 部署毎の手指消毒剤使用量を毎月発表開始
- 医療監視指摘事項への対応（手指消毒剤使用期限見直し、PPE 着脱順序ポスター更新等）
- 新型コロナウイルス感染症院内発生状況
- 角化型疥癬入院患者より 2 名発生したため治療と同時に感染対策実施

その他の活動

感染対策研修会（学研ナーシングサポート視聴・テスト受講）

他施設との合同カンファレンスに参加

済生会兵庫県病院・恒生病院とのグループ、兵庫県立こころの医療センター　各年 4 回

2022 年度も新型コロナ感染症の波を経験しましたが同時に感染対策の緩和も徐々に進んだ時期でした。ワクチン接種も継続し一時はモデルナ社製ワクチンも使用しました。職員の皆さんのご理解とご協力に感謝いたします。2023 年には第 2 類から第 5 類へ変更される見通しですが、これまでの経験を活かし最良の対応を目指します。

療養病棟での疥癬発生を起こさないための対策も今後の課題です。インフルエンザやノロウイルスなどの院内アウトブレイク発生防止、隔離対象となる薬剤耐性菌の水平感染防止等様々な感染症への対策は今後も大きな課題です。職員のご協力を得ながら、一人一人が感染対策を正しく実践出来る体制作りに取り組んで参ります。

石井 日出夫（感染対策委員会　委員長）

□ 診療情報管理委員会

【2022 年度（令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日)】

回数	開催日	場所	主な議事内容
第 152 回	5 月 20 日	電子会議室	・退院要約作成率について ・適切なコーディングに関する事項について ・記録の監査について ・医療情報システムの監査内容について ・次年度の担当者変更について
第 153 回	10 月 22 日	//	・退院要約作成率について ・適切なコーディングに関する事項について ・記録の監査について ・死亡診断書マニュアルについて ・書式申請について

髙木　和喜（診療情報管理委員）

□ 人間ドック委員会

令和 4 年度も引き続き新型コロナの影響が大きく、真星病院でも病棟でクラスターが発生し職員の感染も多く日常業務に多大な影響が出ました。世間でも感染者数が増大し、有熱外来も毎日予約が一杯の状況が続きました。

その様な状況下でもありがたいことに多くの方が当院で人間ドックを受診して下さいました。人間ドック受診の際には 2 週間前からの検温や体調確認などの健康観察表をつけていただき、受診当日も腋窩での検温・問診確認と院内への持ち込み・感染拡大防止にご協力いただきました。

年度末には感染拡大も急速に低下し、マスクも自己判断となりましたのでコロナ禍以前の様に安心して受診していただけるようになると思います。しかし新型コロナが完全に消失したわけではありませんので、油断せずにコロナ禍で学んだことを活かし受診される方が安心できる体制を継続していきたいと思います。

浜本　洋明（人間ドック委員）

□ 救急委員会

【2022 年度（令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日)】

回数	開催日	開催場所	主な議事内容
第 103 回	6 月 1 日	会議室	**検査機器購入について** ピッコロが来年 3 月でサポート切れになるため新規購入検討。 CBC だけの機器は安価。CBC と CRP 検査が可能な機器は高額になる D ダイマー・BUN 心不全・救急診療をする上で今後は必要(大石) 見積を依頼し今後購入、設置場所当を検討する。

□ 接遇改善委員会

【2022 年度（令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日)】

開催日	主な議事内容
4 月 15 日	・引き継ぎ・役割決定 ・課題の確認（5/2 新入職研修，身だしなみチェックの見直し）
5 月 15 日 （電子会議室）	・今年度の活動計画 ・5/2 フォロー研修の報告
6 月 17 日 （電子会議室）	・7/1 フォロー研修についての確認 ・身だしなみチェックの内容・方法についての見直し
7 月 22 日	・挨拶強化週間実施の決定 ・7/1 フォロー研修の報告 ・身だしなみチェック、フォロー研修の見直し
8 月 19 日	・身だしなみチェック実施時期、方法の決定 ・挨拶強化週間の振り返り
9 月 16 日 （電子会議室）	・身だしなみチェック実施方法の確認 ・10 月・4 月分の接遇ワンポイント選定 ・挨拶強化週間の振り返り
10 月 21 日	・身だしなみチェック実施後の評価 ・11/1 フォロー研修についての確認 ・挨拶強化週間の振り返り
11 月 18 日	・11/1 フォロー研修の報告、2/1 フォロー研修の課題 ・2 月実施予定の身だしなみチェックについて ・挨拶強化週間の振り返り
12 月 16 日 （電子会議室）	・身だしなみチェックの見直し ・2/1 フォロー研修の見直し ・挨拶強化週間の評価方法について
1 月 20 日 （電子会議室）	・身だしなみチェック実施方法の確認 ・2/1 フォロー研修の延期決定 ・挨拶強化週間の評価方法について
2 月 17 日 （電子会議室）	・身だしなみチェックの実施後の評価 ・3/1 フォロー研修について ・挨拶強化週間のアンケート結果について ・接遇ワンポイント切替予定の確認
3 月 17 日	・身だしなみチェックの評価 ・3/1 フォロー研修の報告、修正案 ・挨拶強化週間のアンケート結果評価 ・委員会の次年度の課題 ・4/3 全体朝礼での活動の予定確認

その他の活動
・接遇ワンポイントポスター作成・配布(4/1,10/1) ・新入職フォロー研修(5/2,7/1,11/1,3/1) ・挨拶強化週間実施(8 月より毎月 1～7 日) ・身だしなみチェック実施(10 月,2 月) ・挨拶強化週間に関するアンケート実施(2 月) ・ご意見ご要望についての内容検討(毎月) ・ワンポイント唱和（朝礼開催時）

安田　慶一（接遇改善委員）

□ 輸血療法委員会

2022 年度

【毎回の定期案件】

① 輸血前後の感染症検査の実施状況について；　集計および考察

② FFP とアルブミン製剤の使用比率について；　それぞれ RBC 製剤との使用比率の算出

【個別の臨時案件】

① 「輸血発注伝票」　（電子カルテ版）　の作成　；

従来の輸血発注伝票は、紙ベースであり全輸血製剤共通の書式であった。 電子カルテ版においては、各輸血製剤ごとに個別の書式（RBC, PC, FFP, 時間外緊急輸血(RBC), 自己血）で作成作業に着手し、2021 年 5 月に完成した。2021 年 7 月 電子カルテに搭載し運用を開始している。

今年度は、運用開始後の実情に合わせて、細部をブラッシュアップした。

例えば、自己血輸血発注伝票において；

#1. 発注用量の表記を「単位」から「mL」に変更した。

#2. 発注伝票ではあるが、外来での貯血時からの運用様式に修正した。

#3. 整形外科手術の実情に合わせ、２パックに対応する書式に修正した。

② 血小板輸血の項を輸血療法マニュアルに追加　；

「輸血療法マニュアル」の中に、「血小板輸血」の項を独立した項目として新規作成する作業に着手し、2022 年 3 月完成した。 2022 年度から「輸血療法マニュアル」に追加して運用を開始した。

③ 自己血輸血の項を輸血療法マニュアルに追加　；

2020 年 整形外科から、予定手術に際して自己血貯血および自己血輸血施行の申し入れあり、これに対応すべく、「自己血輸血マニュアル」を作成する作業に着手した。2022 年 6 月に完成に漕ぎつけ、輸血療法マニュアルに追加し、運用を開始した。それと同時に、「自己血輸血発注伝票」および「自己血輸血に関する説明と同意書」も作成し、運用を開始した。

【 輸血療法委員会 委員 】

紀医師（委員長）、櫻井理事長補佐、吉田副部長、中室師長、藤澤副師長、竹田師長、長井師長、草葉副師長、三木師長、小南師長、元持科長、南出係長、高木部長補佐、大森課長、 光山事務員（書記）（計 15 名）

（ 文責： 紀 幸一 ）

□ 臨床検査適正化委員会

臨床検査適正化委員会では、臨床検査に関する質的向上と病院内における臨床検査業務の適正かつ円滑な運営を図ることを目的として開催されています。

委員は医師、看護師、事務部長、総合サービス課、臨床検査をもって構成し、1回/3か月のペースで開催されています。

開催回数	開催日	議事内容
第 106 回	2022/4/19	● CRP 基準値変更について ● 血液ガス測定器の変更 ● 血液培養ボトル運用方法変更
第 107 回	2022/7/9	● 廃棄・中止ラベルの運用について ● 救急外来の CBC 検査機器について ● 凝固採血管の製造の遅延について
第 108 回	2022/10/18	● コロナインフルエンザ抗原キットの変更 ● 頚動脈エコー・心エコー検査予約枠の新設 ● 簡易 SAS 検査の運用の変更
第 109 回	2023/1/17 オンライン会議	● 採血管運用方法の変更 ● デンカ･積水のコロナ抗原キットの不具合について ● アンモニア簡易測定器の検討

臨床検査科　南出　有利子

□ 一般救急・精神科等地域連携モデル事業（リエゾン事業）

平成 30 年度より神戸市北区医師会における在宅医療充実強化推進事業の一部として、一般救急・精神科等地域連携モデル事業（リエゾン事業）が開始された。

真星病院においては、入院中の患者様における精神症状（認知症を含む）への対応困難事例について、兵庫県立ひょうごこころの医療センター精神科リエゾンチーム（医師・看護師等）の訪問により専門的なアドバイスを頂くことで同疾患に対する対応力の向上を目的としている。

令和 4 年度の相談件数は 3 件（前年度比－1 件）であった。

日付	症状等
2022/6/1	食意不振、不穏、独語、易怒性、幻視
2021/9/28	幻覚、妄想
2021/11/29	不穏、易怒性、セクシャルハラスメント

今年度より 12 月よりリエゾン事業で構築した連携体制をさらに発展させ、兵庫県立ひょうごこころの医療センター精神科専攻医による毎週の定期精神科コンサルを開始する。

これにより、コンサル後の継続的なフォローやこれまでリエゾン事業で依頼しにくかった軽度の精神症状や内服調整についても相談しやすい環境となった。

コンサルの内容として、病棟での多職種カンファレンスへの参加、患者の診察、主治医への処方調整の提案、看護師への患者対応の助言等を行って頂いている。

令和 4 年 12 月～令和 5 年 3 月の間に述べ件数 32 件とリエゾン事業よりはるかに多いコンサル依頼にご対応頂いた。

入院患者の高齢化や精神症状を有する患者が増加する中で、定期的に精神科医のフォローを受けられる

ことは非常に心強く、今後もさらに連携を強化していきたい。

地域連携室　室長　真保 友仁

□ 退院支援及び病棟管理カンファレンス

入院患者の治療状況、リハビリ状況、退院支援状況を多職種で把握、意見交換を行うことで、退院支援の早期介入や支援内容の見直しを行うことを目的としている。

また、当院は急性期一般病棟、地域包括ケア病棟、医療療養病棟、介護医療院の 4 病棟で構成されている。治療状況や退院支援状況に合わせて適切な時期に適切な病棟への転棟調整、外部医療機関からの紹介患者の受け入れ時期や入院病棟の調整を行うことも当カンファレンスの役割となっている。

週に 1 回の開催としており、令和 4 年度は 40 回のカンファレンスを開催した。

主なカンファレンスメンバー
地域連携室：真保室長、田中 MSW、俵 MSW、秋山看護師、山本事務員
看護部：吉田副看護部長
一般病棟：南副師長、坂野副師長
地域包括ケア病棟：藤澤副師長、大林看護師
療養病棟：竹田師長、赤木副師長、谷口副師長、中野看護師
介護医療院：長井師長、河井ケアマネージャー
リハビリテーション科：内藤係長
総合サービス課：浦手係長、浜本事務員

地域連携室　室長　真保 友仁

診療統計

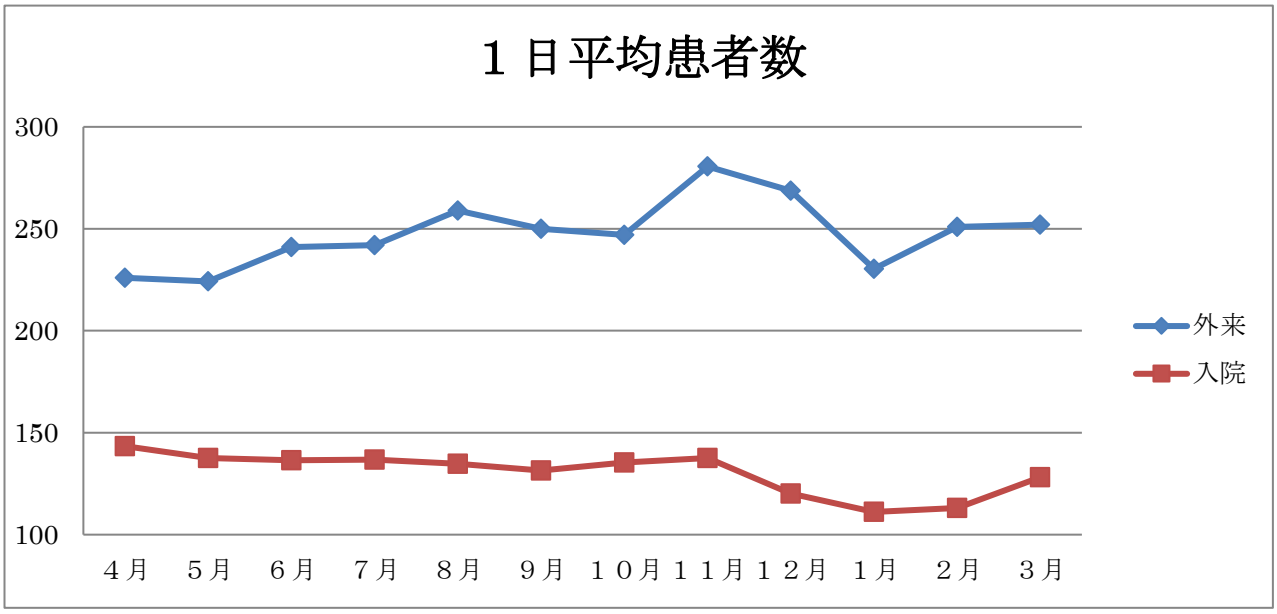
【2022 年度（令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日)】

□ 外来

外来	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
延患者数	7, 998	8, 090	8, 168	9, 461	10, 674	8, 924	8, 723	9, 875	10, 345	8, 928	8, 396	8, 906	108, 488
1 日平均患者数	226	224	241	242	259	250	247	281	269	230	251	252	248
新患者数	306	270	290	496	836	375	332	242	502	358	192	265	4, 464
初診患者数	1, 120	1, 091	1, 093	1, 434	1, 823	1, 310	1, 346	1, 761	1, 583	1, 338	1, 246	1, 181	16, 326
救急件数	21	21	32	48	27	36	26	22	28	28	32	30	351

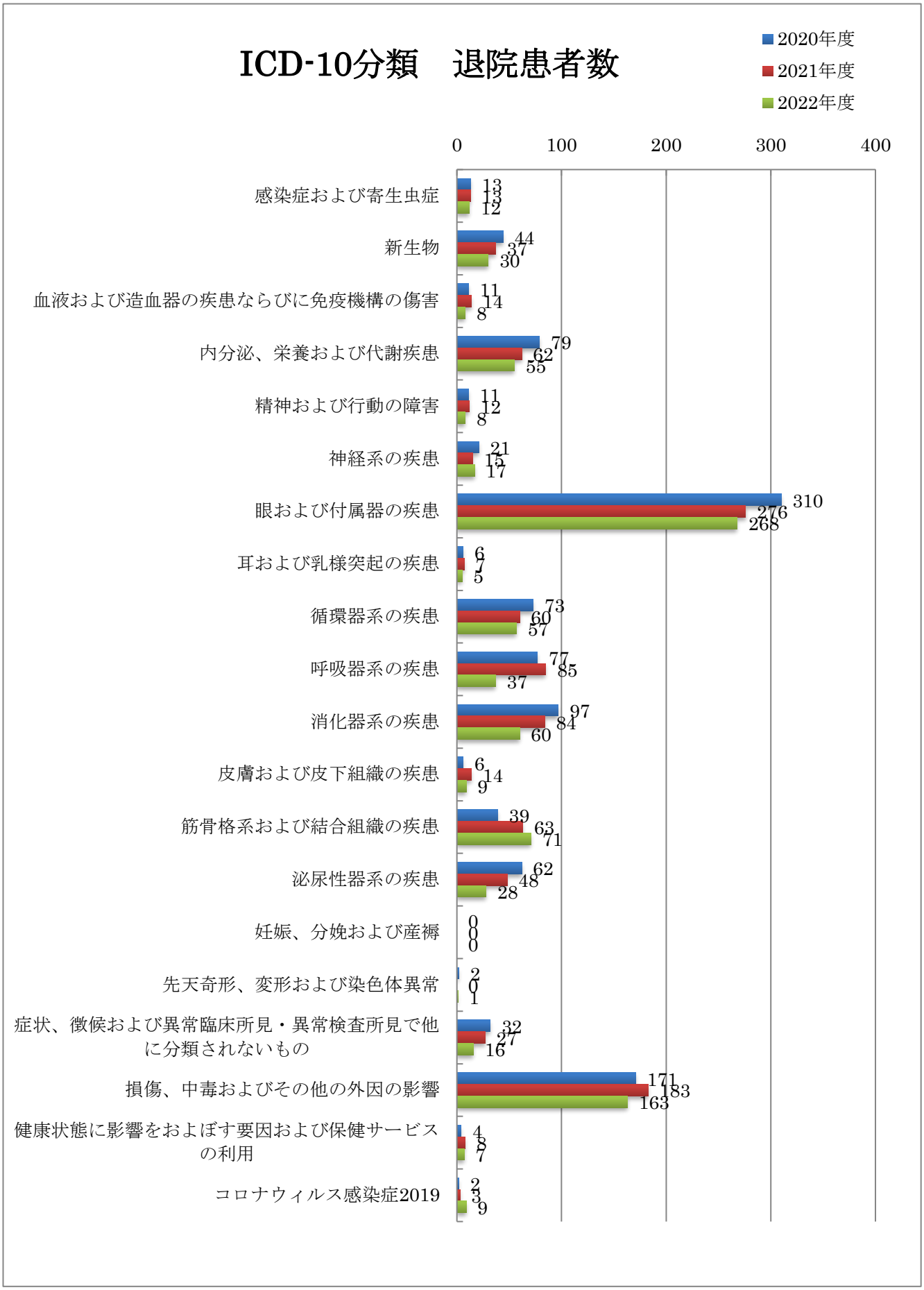
□ 入院

外来	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
延患者数	4, 298	4, 266	4, 093	4, 240	4, 181	3, 944	4, 197	4, 125	3, 723	3, 445	3, 165	3, 962	47, 639
1 日平均患者数	143. 4	137. 6	136. 4	136. 8	134. 8	131. 5	135. 4	137. 5	120. 097	111. 1	113	128. 2	130
病床利用率	77. 8%	77. 2%	73. 5%	76. 1%	74. 9%	70. 4%	75. 6%	76. 6%	65. 9%	60. 1%	60. 9%	70. 9%	71. 7%
平均在院日数（一般病床）	21. 4	15. 1	11. 9	15. 4	14. 5	11. 5	14. 2	12. 9	21. 2	51. 3	17. 3	17. 3	18. 7



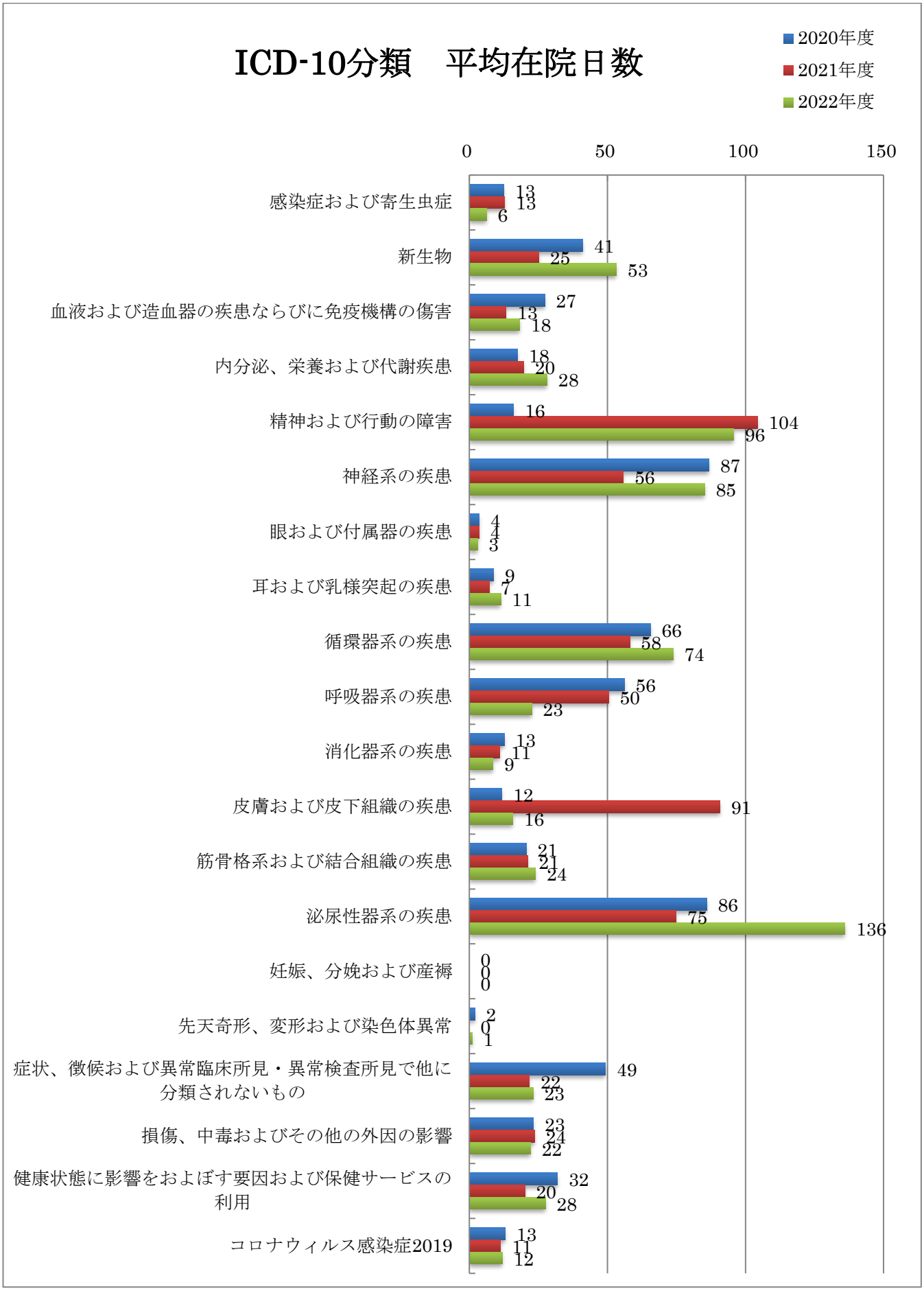
□ 疾患別退院患者数（ICD-10 章分類）

ICD-10	2020 年度	2021 年度	2022 年度
感染症および寄生虫症	13	13	12
新生物	44	37	30
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の傷害	11	14	8
内分泌、栄養および代謝疾患	79	62	55
精神および行動の障害	11	12	8
神経系の疾患	21	15	17
眼および付属器の疾患	310	276	268
耳および乳様突起の疾患	6	7	5
循環器系の疾患	73	60	57
呼吸器系の疾患	77	85	37
消化器系の疾患	97	84	60
皮膚および皮下組織の疾患	6	14	9
筋骨格系および結合組織の疾患	39	63	71
泌尿性器系の疾患	62	48	28
妊娠、分娩および産褥	0	0	0
先天奇形、変形および染色体異常	2	0	1
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	32	27	16
損傷、中毒およびその他の外因の影響	171	183	163
健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	4	8	7
コロナウィルス感染症 2019	2	3	9
計	1,058	1,050	861


ICD-10分類　退院患者数
2020年度
2021年度
2022年度
0
100
200
300
400
感染症および寄生虫症
13
13
12
新生物
44
37
30
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の傷害
11
14
8
内分泌、栄養および代謝疾患
79
62
55
精神および行動の障害
11
12
8
神経系の疾患
21
15
17
眼および付属器の疾患
310
276
268
耳および乳様突起の疾患
6
7
5
循環器系の疾患
73
60
57
呼吸器系の疾患
77
85
37
消化器系の疾患
97
84
60
皮膚および皮下組織の疾患
6
14
9
筋骨格系および結合組織の疾患
39
63
71
泌尿性器系の疾患
62
48
28
妊娠、分娩および産褥
0
0
0
先天奇形、変形および染色体異常
2
0
1
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
32
27
16
損傷、中毒およびその他の外因の影響
171
183
163
健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用
4
8
7
コロナウィルス感染症2019
2
3
9

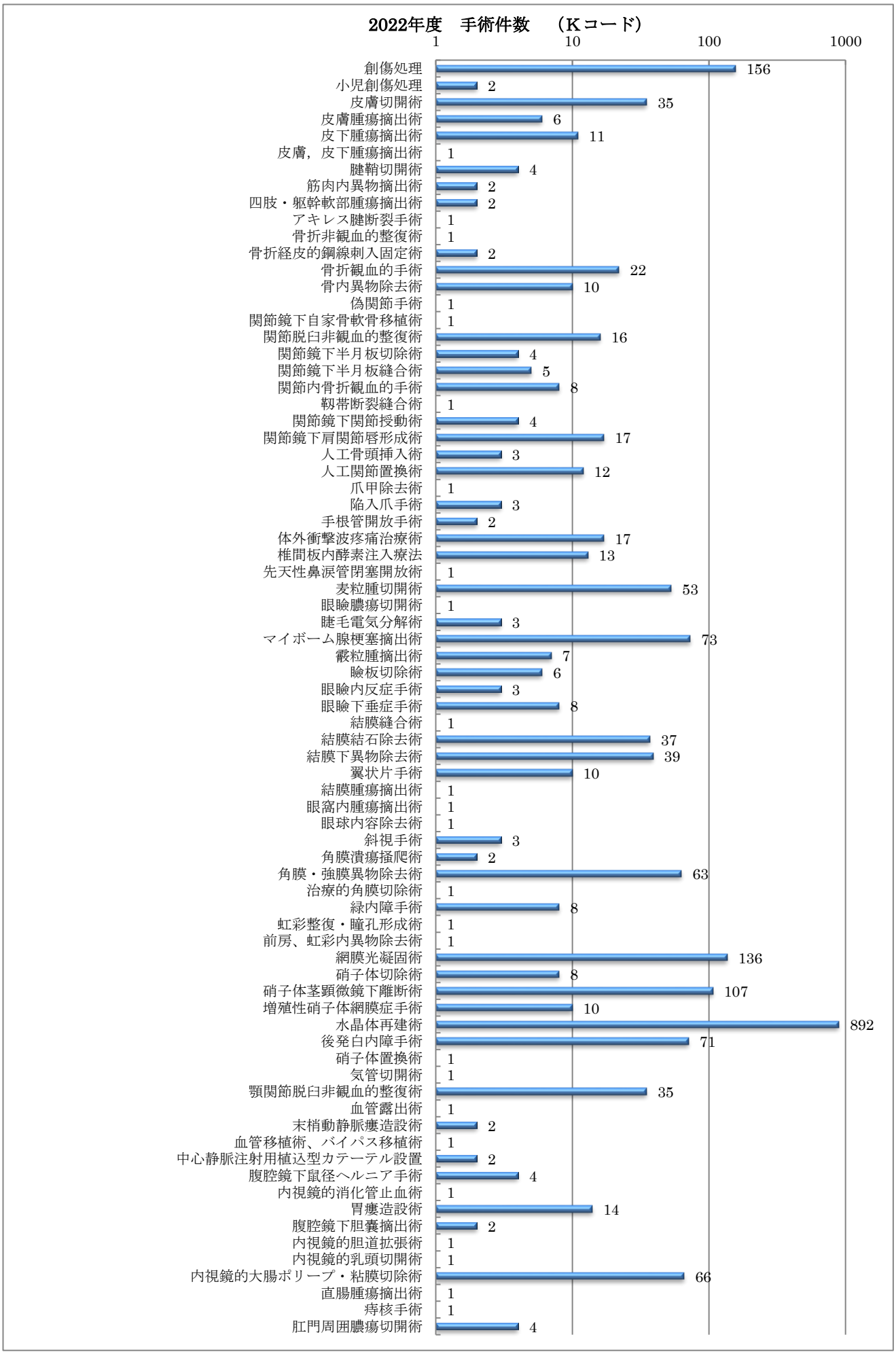
□ 疾患別平均在院日数（ICD-10 章分類）

ICD-10	2020 年度	2021 年度	2022 年度
感染症および寄生虫症	13	13	6
新生物	41	25	53
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の傷害	27	13	18
内分泌、栄養および代謝疾患	18	20	28
精神および行動の障害	16	104	96
神経系の疾患	87	56	85
眼および付属器の疾患	4	4	3
耳および乳様突起の疾患	9	7	11
循環器系の疾患	66	58	74
呼吸器系の疾患	56	50	23
消化器系の疾患	13	11	9
皮膚および皮下組織の疾患	12	91	16
筋骨格系および結合組織の疾患	21	21	24
泌尿性器系の疾患	86	75	136
妊娠、分娩および産褥	0	0	0
先天奇形、変形および染色体異常	2	0	1
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	49	22	23
損傷、中毒およびその他の外因の影響	23	24	22
健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	32	20	28
コロナウィルス感染症 2019，ウィルスが同定されたもの	13	11	12
平均	28	25	25


ICD-10分類　平均在院日数
2020年度
2021年度
2022年度
0
50
100
150
感染症および寄生虫症
13
13
6
新生物
41
25
53
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の傷害
27
13
18
内分泌、栄養および代謝疾患
18
20
28
精神および行動の障害
16
104
96
神経系の疾患
87
56
85
眼および付属器の疾患
4
4
3
耳および乳様突起の疾患
9
7
11
循環器系の疾患
66
58
74
呼吸器系の疾患
56
50
23
消化器系の疾患
13
11
9
皮膚および皮下組織の疾患
12
91
16
筋骨格系および結合組織の疾患
21
21
24
泌尿性器系の疾患
86
75
136
妊娠、分娩および産褥
0
0
0
先天奇形、変形および染色体異常
2
0
1
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
49
22
23
損傷、中毒およびその他の外因の影響
23
24
22
健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用
32
20
28
コロナウィルス感染症2019
13
11
12

術式名	件数
創傷処理	156
小児創傷処理	2
皮膚切開術	35
皮膚腫瘍摘出術	6
皮下腫瘍摘出術	11
皮膚，皮下腫瘍摘出術	1
腱鞘切開術	4
筋肉内異物摘出術	2
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術	2
アキレス腱断裂手術	1
骨折非観血的整復術	1
骨折経皮的鋼線刺入固定術	2
骨折観血的手術	22
骨内異物除去術	10
偽関節手術	1
関節鏡下自家骨軟骨移植術	1
関節脱臼非観血的整復術	16
関節鏡下半月板切除術	4
関節鏡下半月板縫合術	5
関節内骨折観血的手術	8
靭帯断裂縫合術	1
関節鏡下関節授動術	4
関節鏡下肩関節唇形成術	17
人工骨頭挿入術	3
人工関節置換術	12
爪甲除去術	1
陥入爪手術	3
手根管開放手術	2
体外衝撃波疼痛治療術	17
椎間板内酵素注入療法	13
先天性鼻涙管閉塞開放術	1
麦粒腫切開術	53
眼瞼膿瘍切開術	1
睫毛電気分解術	3
マイボーム腺梗塞摘出術	73
霰粒腫摘出術	7
瞼板切除術	6
眼瞼内反症手術	3

術式名	件数
眼瞼下垂症手術	8
結膜縫合術	1
結膜結石除去術	37
結膜下異物除去術	39
翼状片手術	10
結膜腫瘍摘出術	1
眼窩内腫瘍摘出術	1
眼球内容除去術	1
斜視手術	3
角膜潰瘍掻爬術	2
角膜・強膜異物除去術	63
治療的角膜切除術	1
緑内障手術	8
虹彩整復・瞳孔形成術	1
前房、虹彩内異物除去術	1
網膜光凝固術	136
硝子体切除術	8
硝子体茎顕微鏡下離断術	107
増殖性硝子体網膜症手術	10
水晶体再建術	892
後発白内障手術	71
硝子体置換術	1
気管切開術	1
顎関節脱臼非観血的整復術	35
血管露出術	1
末梢動静脈瘻造設術	2
血管移植術、バイパス移植術	1
中心静脈注射用植込型カテーテル設置	2
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	4
内視鏡的消化管止血術	1
胃瘻造設術	14
腹腔鏡下胆嚢摘出術	2
内視鏡的胆道拡張術	1
内視鏡的乳頭切開術	1
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	66
直腸腫瘍摘出術	1
痔核手術	1
肛門周囲膿瘍切開術	4
	計 2,049 件


2022年度　手術件数　（Kコード）
1
10
100
1000
創傷処理 156
小児創傷処理 2
皮膚切開術 35
皮膚腫瘍摘出術 6
皮下腫瘍摘出術 11
皮膚，皮下腫瘍摘出術 1
腱鞘切開術 4
筋肉内異物摘出術 2
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 2
アキレス腱断裂手術 1
骨折非観血的整復術 1
骨折経皮的鋼線刺入固定術 2
骨折観血的手術 22
骨内異物除去術 10
偽関節手術 1
関節鏡下自家骨軟骨移植術 1
関節脱臼非観血的整復術 16
関節鏡下半月板切除術 4
関節鏡下半月板縫合術 5
関節内骨折観血的手術 8
靭帯断裂縫合術 1
関節鏡下関節授動術 4
関節鏡下肩関節唇形成術 17
人工骨頭挿入術 3
人工関節置換術 12
爪甲除去術 1
陥入爪手術 3
手根管開放手術 2
体外衝撃波疼痛治療術 17
椎間板内酵素注入療法 13
先天性鼻涙管閉塞開放術 1
麦粒腫切開術 53
眼瞼膿瘍切開術 1
睫毛電気分解術 3
マイボーム腺梗塞摘出術 73
霰粒腫摘出術 7
瞼板切除術 6
眼瞼内反症手術 3
眼瞼下垂症手術 8
結膜縫合術 1
結膜結石除去術 37
結膜下異物除去術 39
翼状片手術 10
結膜腫瘍摘出術 1
眼窩内腫瘍摘出術 1
眼球内容除去術 1
斜視手術 3
角膜潰瘍掻爬術 2
角膜・強膜異物除去術 63
治療的角膜切除術 1
緑内障手術 8
虹彩整復・瞳孔形成術 1
前房、虹彩内異物除去術 1
網膜光凝固術 136
硝子体切除術 8
硝子体茎顕微鏡下離断術 107
増殖性硝子体網膜症手術 10
水晶体再建術 892
後発白内障手術 71
硝子体置換術 1
気管切開術 1
顎関節脱臼非観血的整復術 35
血管露出術 1
末梢動静脈瘻造設術 2
血管移植術、バイパス移植術 1
中心静脈注射用植込型カテーテル設置 2
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術 4
内視鏡的消化管止血術 1
胃瘻造設術 14
腹腔鏡下胆嚢摘出術 2
内視鏡的胆道拡張術 1
内視鏡的乳頭切開術 1
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 66
直腸腫瘍摘出術 1
痔核手術 1
肛門周囲膿瘍切開術 4

救急告示病院

医療法人社団　まほし会

真星病院

２０２４年１月発行
編集責任者：髙木　和喜